

# 鳥取大学 (鳥取県)



日本語を学びながら、日本文化・地域文化について幅広く学ぶことができます。

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

鳥取大学は「知と実践の融合」を教育理念とし、地域社会との連携を重視する実学に秀でた大学です。構成学部は、地域学部、医学部、工学部、農学部であり、何れの学部においても知識と共に実践的な能力を養うことに力を注いでいます。研究面でもCOEの採択もあり、その活動は高く評価されています。また、地域学部は、地域学を前面に出した数少ない学部であり、東アジアを中心とする地域研究も進めています。

### ② 国際交流の実績

海外の学術交流協定校・機関数 85

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2011年：留学生数169人 (25国・地域)

日本語・日本文化研修留学生 0人

2010年：192人 (30国・地域)

2009年：179人 (27国・地域)

### ④ 地域の特色

自然が豊かで人口が少なく静かな所。地元の人には親切で暖かく地域での交流にも参加しやすいです。ふだんは静かに勉学に打ち込むのによいです。大阪、京都などの有名な大都市には3時間程度で行くことができます。



## ■コースの概要

### ① コースの特色

日本語を学びながら、日本文化について幅広く学ぶことができます。地域の行事にも参加することができ、地域社会をより深く理解することができます。

### ② 受入定員

5名 (大使館推薦・大学推薦不問)

### ③ 受講希望者の資格、条件等

本国において、日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学する者。

### ④ 達成目標

短期交換留学生なみの履修ができること。

### ⑤ 研修期間

2012年10月1日 ~ 2013年9月30日

### ⑥ 研修科目の概要

全学共通科目や学部専門科目の中から、自由に適切な科目を選択することができます。国際交流センターでも必要に応じて補講を行うことができます。

#### 1) 必須科目

履修科目は学部受入教員と相談の上、自由に選択できるため、必須科目は設けません。

#### 2) 見学、地域交流等の参加型科目

国際交流センターで必要に応じて、地域文化・産業を見学に行く授業を実施します (単位はなし)。

### 3) その他の講義、選択科目等

日本語・事情関係では以下の通り。

・「日本語の文法と構造Ⅰ・Ⅱ」学部正規生レベルの講義内容で日本語の文法と構造について深く学びます。

・「日本語実践Ⅰ・Ⅱ」日本語による具体的な実践を学びます。

・「日本文化事情Ⅰ・Ⅱ」さまざまな日本の文化事情について、日本人学生とのディスカッション (「多文化交流ディスカッションⅠ・Ⅱ」の履修者と) ができます。

・「日本社会事情Ⅰ・Ⅱ」さまざまな専門や領域から日本の社会事情について学びます。

・「日本IT事情Ⅰ・Ⅱ」学部正規生レベルの講義内容で日本語によるIT知識を学びます。

その他、全学の共通科目、地域学部の専門科目から、興味やレベルの応じて自由に選択できます。また、国際交流センターでは、補講として「専門日本語」「日本の地域文化・産業」なども実施します (単位はなし)。

指導教員と相談の上、科目を選択できます。

### ⑦ 年間行事

12月 留学生を囲む会

2月 スキー研修



7月 着付け教室・国際交流会  
地域の交流施設では料理大会など、学生サークル  
によるパーティなどもあります。



### ⑧ 指導体制

分野の合う地域学部の教員が指導教員になります。国際交流センターでは、下記の日本語担当教員が、必要に応じて支援を行います。

谷守正寛 准教授（日本語教育）  
tanimori@ciatu.tottori-u.ac.jp  
御館久里恵 講師（日本語教育）  
otachik@ciatu.tottori-u.ac.jp

### ⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

16単位程度の単位を修得すること。成績証明書を発行します。また、学術交流協定締結校の学生は単位互換が可能ですので、単位を必要とする場合は、申請時にその旨を申し出てください。修了証を授与します。

### ■宿 舎

名 称： 鳥取大学国際交流会館  
所在地： 〒680-0947 鳥取市湖山町西4-110  
電 話： 0857-28-4808



ホームページ：<http://www.ciatu.tottori-u.ac.jp/jpn/students/4/4-1.html>

構 造：鉄筋コンクリート5階建て  
部屋数：1人部屋50室，2人部屋6室，3人部屋3室  
利 用：空室があれば入居可  
その他：  
室内には、ベッド，机，椅子，エアコン，書棚，洋服ダンス，シューズボックス，電気スタンド，電気ポットがあります。  
共同設備として、シャワー室，洗濯室，ラウンジ，和室があります。  
コンビニエンスストア，スーパーマーケットまで徒歩15分です。

### ■修了生へのフォローアップ

フォローアップに対応できるよう、帰国者の連絡先・名簿を保存しています。修了後のキャリアパスについては本人に任せています。



### ■問い合わせ先

(担当部署)  
鳥取大学 研究・国際協力部国際交流課  
住所：〒680-8550  
鳥取市湖山町南4丁目101  
TEL：0857-31-5056  
FAX：0857-31-6065  
E-mail：kokuko-gaku@adm.tottori-u.ac.jp

鳥取大学 地域学部教務係  
住所：〒680-8550  
鳥取市湖山町南4丁目101  
TEL：0857-31-5077  
FAX：0857-31-5076  
E-mail：reg-kyoumu@adm.tottori-u.ac.jp

留学生向けホームページ  
[http://www.ciatu.tottori-u.ac.jp/jpn/study\\_in\\_tottori/index.html](http://www.ciatu.tottori-u.ac.jp/jpn/study_in_tottori/index.html)

鳥取大学  
<http://www.tottori-u.ac.jp/>

国際交流センター  
<http://www.ciatu.tottori-u.ac.jp/jpn/ciatu/index.html>

その他  
地域国際交流ウェブサイト  
<http://www.hellotottori.jp/>





# 島根大学 (島根県)



美しい自然環境。地域に根づいた伝統文化や行事の数々。島根だからこそ学べる日本があります。

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

島根大学は法文学部、教育学部、総合理工学部、医学部、生物資源科学部で構成される中規模総合大学です（教員数764名、学生数6143名）。

温かく人情豊かな雰囲気の中で行われる少人数教育が大学の特色の一つで、教員からは授業内外できめ細かい指導を受けることができます。そして、世界各国からの留学生や日本人学生とは、活発な交流が行えます。

### ② 国際交流の実績（2011年5月1日現在）

13カ国39大学・機関と交流協定を結び、学生交流及び研究者交流を行っています。

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

年	留学生数	日本語・日本文化研修生数
2011年	185人	1人
2010年	167人	2人
2009年	178人	1人

### ④ 地域の特色

松江市は、宍道湖、日本海、中国山地に囲まれた自然豊かな美しい地方都市であり、国際文化観光都市にも指定されています。城下町として知られ、古くから茶道や和菓子の文化が栄え周辺には神社や仏閣、史跡、温泉が点在しています。

他県と比べ、在住する外国人が少ないことも、留学生が島根で学ぶ利点となるでしょう。そのため、地域の人々との交流の機会も多く、日本語、日本文化を学びたい人にとっては絶好の場所です。治安もよく、冬には時々雪が降りますが、年間を通して気候は穏やかで住みやすいといえます。

## ■コースの概要

### ① コースの特色

少人数で行う必須の日本語・日本文化研修生向けの授業により、受講生のレベルやニーズに応じて柔軟に指導内容を検討し、きめ細かい指導を行います。

「日本語」コースを選ぶ人は、⑥2)の日本語科目を中心に、「日本文化」コースを選ぶ人は、⑥2)の日本事情、異文化理解入門、その他専門に応じた科目を中心に履修します。

### ② 受入定員

3名（大使館推薦1名、大学推薦2名）

### ③ 受講希望者の資格、条件等

「日本語」コースを選ぶ人は、日本語能力試験N3レベル以上、「日本文化」コースを選ぶ人は日本語能力試験N2レベル以上の日本語能力があり、日本語あるいは日本に関係する分野を専攻していることが望ましいです。

### ④ 達成目標

- 1) 日本語能力試験N2またはN1に合格できるレベルの日本語力を身につけること（来日中の受験を推奨、支援します）。
- 2) 本コースで学んだことを日本語で発表できる能力を身につけること。

### ⑤ 研修期間

2012年10月1日 ~ 2013年9月30日

### ⑥ 研修科目の概要

#### 1) 必須科目

(※日本語・日本文化研修生用の授業)

#### 日本語総合A

多様なコミュニケーション活動を通じて、語彙・表現を豊かにし、日本語上級話者としての言語運用能力を身につける。

#### 日本語総合B

さまざまな場面やテーマに応じた表現や文章の書き方を学び、大学で必要なアカデミックレベルの文章を書く技術を身につける。

#### 日本語総合C(特別演習) ★

地域に密着した伝統文化や芸能、祭事、歴史的文化財などに関連する資料を生教材として、日本語および日本文化を学ぶ。

#### 日本語総合D(特別研究)

各自がテーマを設定して個人研究を行う。ゼミ形式で指導を受け、討論の仕方、図書館の使い方や資料収集の方法、小論文の書き方を学び、成果を発表する。

(★…見学を伴う参加型科目)

2) 選択科目

(※一般留学生、日本人学生と合同の授業)

**日本語ⅠA**

作文クラス。論理的な文章を書くための表現、語彙を増やししながら、文章の構成や展開パターンを学ぶ。

**日本語ⅠB**

読解クラス。語彙力、文法力を高めながら、速読や精読を通じて目的に応じた読み方ができるよう訓練を行う。

**日本語ⅡA**

会話クラス。場面や状況に応じた適切な表現、文型を学び、自分の意見を述べる方法、技術を習得する。

**日本語ⅡB**

口頭表現のクラス。発表のための調査、考察のスキルを養う。生の情報に接し、日本の社会に対する理解や知識も深める。

**日本事情A ★**

日常生活の中に見る日本の文化について知識を深め、その背景にある日本人の考え方、価値観について理解を深める。また、日常的に見る日本文化の中に自分でテーマを見つけ、発表を行ったり、ビデオ制作を行ったりする。

**日本事情B ★**

自然科学の視点から日本、島根県に対する理解を深める。テーマによって野外見学も実施する。

**異文化理解入門**

日本人学生との合同クラス。異文化理解に関する様々なトピックにもとづいて小グループでディスカッションを行ったり、課題制作を行ったりする。

**その他、学生の専門に応じた科目**

例) 日本語のしくみ 日本語学概論 日本文学講義 日本社会のしくみ 日本人の宗教と死生観 日本人の意識構造 等

授業名		時間数		○必須 △選択	
		後期 (10月-3月)	前期 (4月-9月)	日本語 コース	日本文化 コース
必 須	日本語総合A	30	30	○	○
	日本語総合B	30	30	○	○
	日本語総合C	30	—	○	○
	日本語総合D	—	60	○	○
選 択	日本語ⅠA	30	30	○	△
	日本語ⅠB	30	30	○	△
	日本語ⅡA	30	30	○	△
	日本語ⅡB	30	30	○	△
	日本事情A	30	30	△	○
	日本事情B	30	30	△	△
	異文化理解入門	30	—	△	○
	その他 専門に応じた科目	各30	各30	△	○
コース修了要件:		必須授業を含む600時間以上の履修			

⑦ 年間行事・見学 (※年度によって異なります)

- 10月 松江祭どう行列  
足立美術館 (日本庭園)
- 11月 八重垣神社<sup>A</sup>  
石見神楽<sup>B</sup>
- 12月 諸手船神事  
そば打ち
- 1月 どんど焼き  
松江歴史館
- 2月 抹茶工場<sup>C</sup>
- 3月 醤油蔵  
和菓子作り<sup>D</sup>
- 4月 青柴垣神事  
安来のひな祭り  
出雲大社
- 5月 蛍狩り
- 6月 月照寺<sup>E</sup>  
(あじさい寺)
- 9月 留学生見学旅行



## ⑧ 指導体制

日本語・日本事情担当教員ほか、学生の専門に応じて指導教員が、学業面の指導、生活面の支援を行います。

## ⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

必須授業を含む、600時間以上を履修すること。修了者に対し修了証明書を発行します。

## ■ 宿 舎

大学から徒歩5分のところに留学生用宿舎「国際交流会館」があります（単身用26室、夫婦用1室）。  
単身用 月額5,900円 夫婦用 月額9,500円  
入居希望者が多い場合、民間アパートを斡旋しますが、過去3年間の日研生はすべて国際交流会館に入居できています。



【国際交流会館】

【居室】

## ■ 修了生のキャリア例

- ・ JETプログラムの国際交流員として県庁に勤務
- ・ 修了生母国の日本大使館に勤務

## ■ 問い合わせ先

島根大学国際交流課留学生係  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060  
Tel : +81- (0) 852-32-6106  
Fax : +81- (0) 852-32-6481  
E-mail: [gak-ryugaku@jn.shimane-u.ac.jp](mailto:gak-ryugaku@jn.shimane-u.ac.jp)  
H.P: <http://www.shimane-u.ac.jp/>

日本語・日本事情担当教員（中園博美）  
[nakasono@soc.shimane-u.ac.jp](mailto:nakasono@soc.shimane-u.ac.jp)



## 【留学生見学旅行】



## 【スキー旅行】





# 岡山大学 (岡山県)



日本語能力の向上及び日本の文化、社会、政治、経済、教育などに対する理解を深めることを目的とする。本コースは次の3種類の授業で構成される。①日本語・日本事情、日本文化、日本経済、日本の法律・政治に関する留学生向けの授業（日本人学生との共学クラスも設けてある。）②各自の研究テーマに関わる演習（日本人学生も参加する。）③文学部、教育学部、法学部、経済学部の各学部の日本人学生対象の講義

## ①大学紹介

### ・大学の特色および概要

#### 1) 特色と歴史

岡山大学は1949年に設立された国立大学ですが、その前身は1922年設立の岡山医科大学、1900年設立の第六高等学校などで、長い伝統があります。設立後発展を重ね、現在では文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境理工学部、農学部の11学部と、教育学研究科、社会文化科学研究科、保健学研究科、医歯薬学総合研究科、自然科学研究科、環境学研究科、法務研究科の7大学院を擁する全国で有数の総合大学です。

国際交流に力を入れているのが本学の特色のひとつです。本学に在籍している外国人留学生に対しての日本語教育は、言語教育センターが担当し、生活面のサポートは国際センターが行っています。

#### 2) 教員・学生数等 (2011年5月1日現在)

教員数：1,284名  
学部学生：10,287名  
大学院生：3,273名

#### ・国際交流の実績 (2011年5月1日現在)

大学間交流協定数 63件



### ・過去3年間の留学生受入数及び日本語・日本文化研修留学生 (以下、日研生) の受入れ実績 (各年5月1日現在)

2011年：留学生数510名/日研生1名(大学推薦)  
2010年：留学生数572名/日研生2名(大使館推薦1/大学推薦1)  
2009年：留学生数627名/日研生3名(大使館推薦2/大学推薦1)

### ・岡山市の特色

岡山県は日本の西部にある中国地方に位置し、瀬戸内海に面しています。水島工業地帯を抱え工業が盛んであるとともに、農産物や水産物が豊かな県です。岡山大学のある岡山市は岡山県の県庁所在地で、この地方の政治、経済、教育、文化の中心地のひとつです。

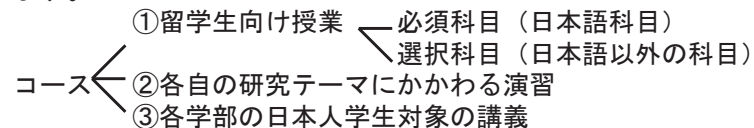
岡山市の人口は約70万人で、2009年4月から政令指定都市になりました。岡山市へは交通が大変便利です。新幹線を利用すれば、東京から3時間30分、新大阪から45分で岡山市に着きます。

## ②コースの概要

### ・コースの特色

日研生は文学部、教育学部、経済学部、法学部のいずれかに属して指導教員の指導を受けます。学部にも所属しますので、日本語の能力が特に高い学生は、日本人学生と共に講義やゼミに出席することができます。日研生のコースは①留学生向け授業、②各自の研究テーマにかかわる演習、③各学部の日本人学生対象の講義の3種類の授業で構成されています。

留学生向けの授業は日本語科目と日本語以外の科目があり、日本語科目は必須ですが、日本語以外の科目は自由に選択できます。



・受入定員 5名 (大使館推薦4名, 大学推薦1名)

### ・受講希望者の資格、条件等

本コースの受講を希望する者は、中級レベルの日本語 (語彙6,000語, 基本漢字1,000字程度) を習得していること。これは日本語能力試験の2級あるいはN2レベルに相当します。

### ・達成目標

アカデミックな日本語能力を養い、日本に関する専門的な知識を深めること。

### ・研修期間

2012年10月1日～2013年9月30日  
(自主研修期間を含む)

### ・研修科目の概要

授業は原則として、前期・後期各16週間開講されます。(カリキュラムは変更する場合があります。)

### ◆必須科目 (日本語科目)

プレースメントテストの結果に基づいて、日本語のクラスを決めます。中級2は日本語能力試験N2程度、上級1は日本語能力試験N1程度を目指す学生のためのコースです。上級2, あるいは文学部で開講されている上級コースは、既に日本語能力試験N1レベルに達している学生を対象としています。

◇中級コース (言語教育センター)

授業科目名		概要	時間数
前 ／ 後 期	中級1	中級中期の総合的なクラス	120時間
	中級2	中級後期の総合的なクラス	120時間

◇中級コース（教育学部）

授業科目名	概要	時間
日本語 初中級 (前/後期)	中級前期の総合的なクラス	30

◇上級コース（言語教育センター）

授業科目名	概要	時間	
前 ／ 後 期	上級1	上級前期の総合的なクラス	120
	上級2 書く 読む 聞く 話す	書く、読む、聞く、話す能力をさらに高めるクラス	30
			30
			30

◇上級コース（文学部）

授業科目名	概要	時間	
前期	日本語1A	上級読解	30
	日本語2A	上級文法	30
	日本語会話A	上級会話	30
後期	日本語1B	上級読解	30
	日本語2B	上級文法	30
	日本語3A	上級作文	30



◆選択科目（日本語以外の科目）

授業科目名	概要	時間
日本事情 (前/後期)	茶道、備前焼などの日本文化を体験しながら学ぶクラス	30
日本文化学 (前/後期)	日本文化に関わるテーマについて討論するクラス	30
日本経済事情 (前/後期)	日本の経済について学ぶクラス	30
日本法政事情 (後期)	日本の法律や政治について学ぶクラス	30
岡山を知ろう (前期)	岡山の文化・産業について学ぶクラス	30

※日本語の能力が特に高い学生は、上記以外に所属学部で開講されている日本人対象の講義の受講が可能です。

・行事等

10月 新入生オリエンテーション、新入生歓迎パーティー  
 11月 大学祭  
 12月 学長主催 外国人留学生交歓懇親会  
 12月25日～1月7日 冬季休業  
 3月 春季休業  
 8月～9月 お別れパーティー、夏季休業

・指導体制

1) プログラム実施委員  
 日本語・日本文化研修留学生を受け入れる学部において指導教員を決め、研究計画を作成します。

コーディネーター

坂野英里（言語教育センター）  
 堤 良一（文学部）  
 松田文子（教育学部）  
 廣田陽子（経済学部）  
 井口文男（法学部）

2) 指導体制

受け入れ学部の指導教員の指示に従ってください。



・コースの修了要件、修了証書の発行、単位の認定、単位互換等

半期210時間以上、1年間で420時間以上履修し、修了レポートを作成すること。修了時に修了証書を授与します。

本コースで修了した単位を母国の大学の単位に振り替えるために、単位認定書を発行します。

③宿舎

下記の岡山大学外国人留学生・研究者宿泊施設のいずれかに入居できます。各宿泊施設は大学の中心キャンパスである津島キャンパスから徒歩5～10分程度のところに位置しており、通学に大変便利です。

日本語・日本文化研修留学生は、研修期間中優先して入居することができます。

寄宿料および光熱水料は次のとおりです。

- 桑の木留学生宿舎寄宿料 北棟月額 8,000円  
南棟月額10,000円
- 福居留学生宿舎 寄宿料 月額14,000円
- 国際交流会館 寄宿料 月額18,000円

※その他、電気、ガス、水道料金を負担していただきます。

**※寄宿料は改定する場合があります。**

桑の木留学生宿舎



福居留学生宿舎



## 国際交流会館



## ④修了生へのフォローアップ

2011年10月に岡山大学留学生同窓会設立記念式典及び第1回総会が開催されました。今後、更に海外での活動を充実させ、日研究生を含め、本学修了生へのフォローアップに務めていく予定です。

また、日研究生修了生のうち、より深く専門分野を本学で学びたい学生が本学に戻ってくるケースも増えており、過去3年間で3名が研究留学生として本学に入学しています。



## ⑤問い合わせ先

(担当部署)

岡山大学国際センター

住所 〒700-8530

岡山県岡山市北区津島中2丁目1番1号

TEL +81-(0)86-251-7051 (直通)

FAX +81-(0)86-252-5022

E-mail dde7046@adm.okayama-u.ac.jp

岡山大学ホームページ

<http://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学国際センターホームページ

[http://ic.int.okayama-u.ac.jp/index\\_int.html](http://ic.int.okayama-u.ac.jp/index_int.html)





# 広島大学 (広島県)



・充実した日本語日本事情教育

・豊富な実地見学

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

#### 1) 特色と歴史

1949年広島文理科大学、広島高等師範学校などを包括して設置された。西日本の教育系大学の代表格としての伝統を持ち、国立大学としては、全国有数の規模と学生数を誇る。11の学部と12の大学院があり、情報化、国際化、生涯学習及び国際協力へのニーズに対応した教育・研究が行われている。学部・研究科（大学院）以外にも、高等教育研究開発センター、平和科学研究センター、国際センター、原爆放射線医科学研究所などのユニークなセンター・研究所群を持つ。

さらに、教育学部は日本語教育系コースを持ち、日本語教師や日本語教育学の専門家を目指す日本人学生、留学生が勉学に励んでいる。

医学部、歯学部等を除く東広島市への統合移転が1995年度に完了し、市街地を離れた広大な東広島キャンパスは、自然に恵まれ、静かに落ち着いて勉学に打ち込める環境にある。

#### 2) 教員・学生数等

教員数	1,766名 [2011. 11. 1 現在] (学長 浅原 利正)
学生数	学部学生・研究生等 11,887 名 [2011. 11. 1 現在] 大学院学生・研究生等 4,457 名 [2011. 11. 1 現在]

### ② 国際交流の実績

留学生在籍数	1,085名 (63カ国) [2011. 11. 1 現在]	
うち、日本語・日本文化研修プログラム	国際センター	3名 [2011. 11. 1現在]
	文学部	0名 [2010. 11. 1現在]
	教育学部	1名 [2011. 11. 1現在]

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修学生の受入実績

	留学生数	日本語・日本文化研修留学生
2011年	1,085人	4人
2010年	1,169人	4人
2009年	1,106人	4人

### ④ 広島県、広島市、東広島市の特色

広島市、東広島市が位置する県南部は、瀬戸内海に面し、気候は温暖で、四季に恵まれ、海苔やカキの養殖が盛んである。また北部の中国山地は、神楽などの伝統芸能が盛んで、「たたら（現在の製鉄所）」の遺跡も多い。

広島市は世界最初の被爆都市であるが、政令指定都市となった現在は、国際平和都市として市民グループの活動も活発で、平和や国際協力に関する留学生との国際交流活動に参加できる機会にも恵まれている。

東広島市は、広島市の東約30キロの盆地の中にあり、古くから、酒都として有名であるが、現在は、広島大学、他の私立大学、また国や多くの企業の研究施設も移転してきており、研究学園都市として急速に発展している。また、半導体、電気・電子機器等製造業の進出が近年盛んで、人口も急速に増えている。

## ■コースの概要

### ① コースの特色

本プログラムは、本プログラムの研修生のみを対象として開講する必修の「日本語・日本文化特別研究」、指導教員のもとで行われる「課題研究」、およびそのレポートの作成、そして全学向けの「日本語・日本事情科目」から選択して履修する授業を3つの柱としている。

必修科目である「日本語・日本文化特別研究」では、国際センター、また学内の教員の協力を得て、1回完結の講義の中で日本語と日本文化、日本社会、広島から考える平和について学ぶとともに、広島市を始め、広島県内および中国地方、瀬戸内海周辺で実施する多くの見学を通じて、直接日本文化に接しながら日本の歴史、文化、風俗および平和の尊さについて学ぶ。

「日本語・日本事情科目」は、全学の留学生に開講されているものだが、そのうち、中上級レベルであるレベル4、上級レベルであるレベル5のクラスから、自身の日本語能力と興味・関心に応じて授業を選択する。

「課題研究」では、日本語学、日本語教育学、日本文化学などの専門家である指導教員の個別指導のもと、日本語・日本文化の分野で専門水準の研究を行う。また、自身の興味、専門に応じ、指導教員と相談したうえで、総合科学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部等で開講されている日本人学生向けの授業を聴講することも可能である。

研修生には日本人学生のボランティアチューターを1人つけ、生活面、勉学面でサポートしている。さらに、要望に応じて日本語会話パートナーと会話練習をしたり、多様な国際交流活動に参加できる。

また、国際センターでは、コンピューター室の開放、研修生全員に専用の研修ツールとして

ノートブック型コンピューターの貸出などを行っている。

さらに、国際センターには数多くの日本映画、アニメのDVDソフトが用意されており、これらを活用した授業が行われているだけでなく、授業の一環として視聴を奨励している。

また、国際センターでは、各留学生在が指導教員の個別指導のもとに行った「課題研究」をまとめ、毎年、研修レポート集として発行している。

## ② 受入定員

20名（大使館推薦と大学推薦を合わせ）

## ③ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講できる者は、文部科学省の規定に基づく大使館推薦による者の他、大学間協定、ないし部局間協定に基づく大学推薦の学生とし、以下の要件を満たす者とする。

1) 日本語能力：日本語能力検定試験2級以上の高い日本語能力を有する者、あるいは有すると見なせる者。

2) 日本研究学習歴／専攻：日本語を2年以上学び、日本語・日本文化を主専攻とする者。大学1年生は対象としない。

## ④ 達成目標

日本語・日本文化の分野で一年間、指導教員の個別指導のもと、卒業論文の水準の「課題研究」を行い、研修修了時に日本語レポートとしてまとめる。これにより、テーマの設定、研究構想、原稿作成、口頭発表に必要な日本語能力を獲得する。

## ⑤ 研修期間

2012年10月1日 ～ 2013年9月30日  
修了式は9月初旬を予定（2011年は9月）

## ⑥ 研修科目の概要

授業は原則として前期・後期各15週開講される。

### 1) 必須科目

「日本語・日本文化特別研究I・II」：前後期週2コマ（4時間）  
国際センター、また学内の教員による日本語・日本文化・日本事情に関する講義、および文化施設・文化財・建築等の見学。また、「課題研究」の構想発表・中間発表もこの時間に行われる。以下の講義・見学は2011年度のもので、2012年度は多少変更の可能性はある。

### 2) 見学、地域交流等の参加型科目

広島見学1（広島城・平和公園）  
広島見学2（ひろしま美術館・広島市現代美術館）  
サタケ（精米器メーカー）見学  
宮島見学  
亀齢酒造見学  
マツダ見学  
福山見学  
瀬戸内海しまなみ研修旅行（愛媛県松山市1泊2日）  
尾道見学  
下蒲刈島・呉市見学  
古事記・風土記の旅（島根県松江市1泊2日）

### 3) その他の講義、選択科目等

#### ・講義

日本語音声学・音韻論	現代日本語の語彙
日本人にとっての平和	日本の考古学
日本語と文体	俳句入門
平和国家日本	日本の農業
日本の教育	日本社会とジェンダー

#### ・選択科目

#### レベルIV：

（前期）総合日本語中級IIA（長文読解）、B（日本語作文）、C（聴解）、日本の教育と文化A：各1コマ（90分）／週  
（後期）総合日本語中級IID（長文読解）、E（日本語作文）、F（聴解）、日本の教育と文化B：各1コマ（90分）／週

#### レベルV：

・日本語聴解特別演習A・B	・日本語語彙特別演習A・B
・日本語分析特別演習A・B	・日本語表現特別演習A・B
・映像日本語特別演習A・B	・論文作成法A・B
・日本の社会・文化A・B	：各1コマ（90分）／週

## 日本語【授業科目及び授業時間数】

授業科目		前期	後期
必須科目	日本語・日本文化特別演習	60	60
選択科目： 日本語・日本事情 科目	総合日本語中級II A・D	30	30
	総合日本語中級II B・E	30	30
	総合日本語中級II C・F	30	30
	日本の教育と文化 A・B	30	30
	日本語聴解特別演習 A・B	30	30
	日本語語彙特別演習 A・B	30	30
	日本語表現特別演習 A・B	30	30
	日本語分析特別演習 A・B	30	30
	日本の社会・文化 A・B	30	30
	論文作成法 A・B	30	30

## ⑦ 年間行事

- ・日帰り見学  
1年間に5～6回
- ・研修旅行（1泊2日）  
前期、後期それぞれ1回
- ・研修成果発表会  
修了式当日

## 1) プログラム実施委員

氏名	所属・職名	専攻
浮田三郎 (委員長)	国際センター教授	日本語・日本事情教育、言語学
中川正広	国際センター教授	文体論、日本語教育
田村泰男	国際センター准教授	言語学、日本語教育
石原淳也	国際センター准教授	日本語音声学・音韻論、言語学

## 2) 指導体制

センターに所属する全ての教員および一部の教育学部教員が指導教員として本プログラムに参加し、学生の学業、生活両面にわたり指導・助言を行っている。

## 3) 助言・カウンセリング

留学生に対する助言・カウンセリング等は、以下の場所で協力して行われている。

- ・保健管理センター
- ・所属学部の留学生専門教育教員（教育学部配置学生のみ）

## ⑨コースの修了要件、修了証書の発行

修了時に各指導教員の下で行った「課題研究の成果をまとめたレポートの提出も求められる。修了式において学長の署名が入った「修了証書」が授与される。

## ■宿 舎

広島大学の留学生数の増加にともない、全ての者が広島大学内の留学生用宿舎、東広島市内の公的宿舎へ入居できるとは限らない。やむを得ず民間アパートに入居しなければならない場合もある。

- ・過去3年間の日研生の宿舎入居状況（各年度10月現在）

	国際交流 会館	サンスクエア 東広島	民間 アパート	計
2009年度	4	0	0	4
2010年度	4	0	0	4
2011年度	4	0	0	4

### ・広島大学内の留学生用の宿舎

「国際交流会館」：広さ 13.3㎡、家賃 5,900円/月、共益費 2,700円/月、積立金25,000円、国際センターまで徒歩20分、自転車7分・留学生用の公的宿舎（東広島市内）

「サンスクエア東広島」：広さ 17.46㎡、家賃 20,000円/月、共益費 2,500円/月、備品使用料、1,000円/月、敷金60,000円、国際センターまでバス15分、自転車40分

### ・民間アパート（平均的相場）

広さ 15㎡~17㎡、家賃 25,000~45,000円/月、共益費 1,000~3,000円/月、敷金 家賃の1~3ヶ月分、礼金 家賃の約1ヶ月分、斡旋料 家賃の約1ヶ月分

- ・奨学金支給までの生活費、宿舎入居のための資金として少なくとも10万円程度を用意しておくことが望ましい。



## ■修了生へのフォローアップ

- ・日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集を修了生本人と所属（出身）大学へ送付
- ・修了生のレポートPDFを国際センターホームページにリポジトリ登録し、閲覧可能
- ・修了した研修プログラムの記録を国際センターホームページに保存し、閲覧可能
- ・研修プログラムの最新の動向を知らせるため修了生をメーリングリストに登録

## ■問い合わせ先

（担当部署）

広島大学国際センター国際交流グループ

住所：〒739-8514 広島県東広島市鏡山  
1丁目7番1号 広島大学学生プラザ

TEL：+81-82-424-6184（直通）

FAX：+81-82-424-4545

E-mail: kokusai-ryugaku@office.hiroshima-u.ac.jp

○ 国際センターホームページ

<http://www.iie.hiroshima-u.ac.jp/index.html>

○ 留学生キャンパスライフガイド

<http://www.iie.hiroshima-u.ac.jp/center/campus/index.html>

○ 広島大学ホームページ

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html>



# 山口大学 (山口県)



歴史のある美しい街、山口へ留学してみませんか

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

#### 1) 特色と歴史

山口大学は1815年、長州藩士・上田鳳陽によって創設された私塾・山口講堂を前身とし、明治・大正期の学制を経て、1949年に地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設された。

メイン・キャンパスは山口市（人口は196,500人）に位置している。山口市は自然環境に恵まれた落ちついた都市で、多くの歴史的名勝・文化的景観が残されている。

#### 2) 教員・学生数等（2011年5月現在）

・教員数：1,073名

・学生数：学部生 8,870名

大学院生 1,754名

### ② 国際交流の実績

・大学間交流協定校数：40校（2011年5月）

・学部間交流協定校数：釜山大学校

復旦大学

イヴァン・フランコ記念

リヴィウ国立大学

セントラル・

ランカシャー大学

キャンベラ大学

（2011年5月）

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2011年：留学生数 297人、日本語・日本文化研修留学生 1人

2010年：留学生数 305人、日本語・日本文化研修留学生 1人

2009年：留学生数 320人、日本語・日本文化研修留学生 1人

### ④ 地域の特色

山口県は、本州の西の端にあり、山口大学吉田キャンパスのある山口市は「西の京」とも呼ばれ、歴史と文化の薫り漂う県庁所在地です。吉田キャンパス近くにある「湯田温泉」は、約800年の歴史と山陽路随一の規模を持つ温泉街で、一日2000tという豊かな湧出量を誇り、地元客や観光客に人気です。このほか、県内には優れた温泉地がたくさんあります。

また、広島県、福岡県の間に位置し、どちらの都市にも新幹線で約40分で行くことができます。

## ■コースの概要

### ① コースの特色

・スピーキング、リーディング、ライティング能力を伸ばしながら、日本語の基礎を学ぶことを主な目的とする

・コースには日本語能力の中級話者を対象にした日本語及び日本事情の授業科目が含まれる。

### ② 受入定員 2名

### ③ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講する者は、日本国以外の大学学部（来日時点で主として第2学年次以上）に在籍する学生で、日本語・日本文化研修生として、以下の要件を満たす者とする。

#### （1）日本語能力

日本語能力試験のN3ないしそれ以上のレベルに合格している者、または同等の日本語能力を有する者。一般的な事柄について会話ができて、基本的な文章を読み書きできること。

#### （2）日本研究学習歴、専攻

日本語・日本文化に関する分野を専攻する者。

#### ④ 達成目標

・日常的に使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

・日本社会、日本文化に関する研究に活用できる知識を身につける。

#### ⑤ 研修期間

2012年10月1日 ～ 2013年9月30日  
修了式は9月を予定

ただし、オリエンテーションの日程によっては、10月1日以前に来日するように求める場合がある。

#### ⑥ 研修科目の概要

##### 1) 必須科目

##### 【日本語演習A】（前期30時間／後期30時間）

演習形式、使用言語：日本語

単語や文法の知識を基に、特に「聞く」「話す」能力を育成し、日常生活におけるより一層のコミュニケーション能力の向上を目指す。また、学習内容のトピックに関連した簡単な新聞記事も読めるようにする。

##### 【日本語演習B】（前期30時間／後期30時間）

演習形式、使用言語：日本語

表現文型・文法を学び、日本語の運用能力を高める。特に助詞が正しく使えるようになることを目指す。また、その日のテーマに関連したディスカッションから書く練習へと発展させ、文章作成能力のレベルアップを図る。

##### 【日本語演習C】（前期60時間／後期60時間）

演習形式、使用言語：日本語

いろいろなジャンルの新聞記事、エッセイ、小説などを読み、日本語の様々な文体に慣れる。楽しく読むことができ、かつ読めたという体験を持たせ、長文の速読速解能力の向上を目指す。

##### 【日本事情】（前期30時間） 講義形式、使用言語：日本語

日本の文化、習慣、教育、政治、経済など日本についての基本的な事項を各種のメディア（新聞、雑誌、テレビ、インターネット等）から取り上げ、講義し、その日のテーマについてディスカッションを行う。

##### 【異文化を学ぶ】（後期30時間） 講義形式、使用言語：日本語

日本文化に関する様々なテーマについて学習する（例：日本の漫画、アニメ、音楽、遊び、芸術、社会）。フィールドワーク作業、ビデオ教材等を含めることで、言葉では説明しにくいものを感覚的に理解出来るように配慮する。

##### 2) 見学、地域交流等の参加型科目

日本文化と歴史を体験から学びとるため、毎年冬に留学生を対象とした見学旅行を実施しています。神社や武家屋敷を訪れたり、温泉に宿泊したりします。

見学先：福岡・熊本（2009）  
長崎（2010）  
大分（2011）

##### 3) その他の講義、選択科目等

さらなる勉学・研究のために、日本語の仕組み、日英語の違い、日本の音楽、日本の歴史、日本の工芸等の教育学部開講の授業に参加することができる。

留学生の日本語能力の向上の程度を勘案して、日本語のドリル及び日本文化に関する補講を行うことがある。

教育学部が開設する授業に加え、本学には共通教育科目として、すべての学部在籍する留学生を対象にした日本語・日本事情関係の授業が開講されている。日本語能力テストの結果に応じてこれらの授業を履修することも可能である。

## ⑦ 年間行事

- 1 1月 留学生歓迎会、懇談会
- 1 2月 留学生見学旅行（1泊2日）

## ⑧ 指導体制

- ・責任教員 高橋 俊章（学生国際交流作業部会会長）
- ・学生の所属：教育学部
- ・指導教員：希望に合わせて専門分野の教員又は、国際交流に関わる教員が指導を担当する。

## ⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

- ・各自の課題（日本語・日本文化に関するもの）の研究を押し進め、最終的には論文を提出する。
- ・本コースの科目を全て履修した者には、修了証書を発行する。

## ■宿 舎

原則として、山口大学の敷地内の留学生用宿舎「国際交流会館」に入居可能である。

- ※過去3年間の入居実績： 1名（2009年）  
1名（2010年）  
1名（2011年）

※留学生用宿舎の詳細については以下のURLを参照

[http://www.isc.yamaguchi-u.ac.jp/ryugaku/ryu\\_05.html](http://www.isc.yamaguchi-u.ac.jp/ryugaku/ryu_05.html)



## ■修了生へのフォローアップ

修了生へのフォローアップについては、指導教員に一任している。

## ■問い合わせ先

・山口大学教育学部学務係

住所：〒753-8513

山口県山口市吉田1677-1

TEL：083-933-5307

FAX：083-933-5468

E-mail：info-g@yamaguchi-u.ac.jp

・担当教員：高橋 俊章

（教授・学生国際交流作業部会会長）

E-mail：[bld10@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:bld10@yamaguchi-u.ac.jp)

URL：<http://abroad.edu.yamaguchi-u.ac.jp/>

【山口大学ホームページ】

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

【山口大学留学生センターホームページ】

<http://www.isc.yamaguchi-u.ac.jp/>



# 山陽学園大学 (岡山県)



講義を受講するだけでなく、企業訪問・ホームステイ等の体験を盛り込んだプログラムです。

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

明治19年、山陽英和女学校として誕生した山陽学園は、現在、大学、短期大学、高校、中学校、短期大学附属幼稚園の5つから構成される総合学園になりました。

大学は1994年に開学し、看護学部と総合人間学部の2学部、3学科で、同じ敷地内に食物栄養学科と幼児教育学科を持つ短期大学、そして短期大学附属幼稚園があります。

大学、短期大学併せて1000人程度の小さな大学ですが、それだけアットホームな雰囲気、教員と学生の距離が近く、教員が親身になって相談に乗ってくれるという利点があります。

クラブ活動も盛んで、バレーボール部、卓球部、テニス部、バドミントン部、軽音楽部、茶道部、児童文化部、日本語ボランティア部、ウラジャ部などが熱心に活動しています。

大学の総合人間学部・言語文化学科には、中国、韓国、ベトナム、ネパール、バングラデシュから留学生が来ており、和気藹々とした雰囲気、勉強に励んでいます。常勤・非常勤教員としては、中国人、イギリス人、韓国人のスタッフがいます。

また、同学園の高校にも毎年英語圏のオーストラリアなどから留学生が来ており、大学の学生がボランティアで日本語指導を行っています。

### ② 国際交流の実績

受け入れに関しては、韓国、台湾の大学間協定校から、インターシップ生、中長期留学生、日本語・日本文化短期研修生を毎年受け入れています。また、国際交流基金の日本語インターンプログラムで来日している学生（韓国、台湾、中国）の協定校訪問も受け入れています。

送り出しに関しては、アメリカ、オーストラリア、韓国、台湾、中国、ニュージーランドの協定校、協力校に語学研修や日本語教育実習で訪問しています。

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2011年：留学生数	約200人、	日本語・日本文化研修留学生	0人
2010年：留学生数	約200人、	日本語・日本文化研修留学生	0人
2009年：留学生数	約200人、	日本語・日本文化研修留学生	0人

### ④ 地域の特色

岡山県は、「晴れの国 岡山」と言われるほど、全国で「晴れの日」が最も多く、瀬戸内海の温暖な気候に恵まれた県です。フルーツ王国として昔から桃やぶどうが有名でしたが、近年は津山ホルモンうどん、蒜山焼きそば、日生のかきのお好み焼きなど、B級グルメ王国としても注目されています。

その岡山県の南部にある人口70万人の県庁所在地・岡山市は、中国地方の交通の要で、四国・九州・山陰・関西のいずれの地方に行くにも便利だけでなく、日本三大庭園の一つである後楽園など、歴史的な見所も多いです。また、2月には、奇祭「西大寺裸祭り」、8月には桃太郎にちなんだ「うらじゃ祭り」も行われます。

## ■コースの概要

### ① コースの特色

小規模大学の特色を生かし、学部生と同じ授業に出席することで、日本人及び留学生との交流を図ります。

また、講義の受講に留まらず、演習科目に参加したり、企業を訪問したり、さらにホームステイを行ったりすることで、日本での体験を増やし、理論と体験を組み合わせたプログラムを組んでいることが特色です。



### ② 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）



- ③ 受講希望者の資格、条件等  
日本語能力試験N1またはN2を取得し、  
学部の授業についていける日本語能力の  
ある者

- ④ 達成目標  
・日本語の能力向上。  
・日本への理解を深める。  
・日本を知ることによって自国への理解を深める。

- ⑤ 研修期間  
2012年10月～2013年8月上旬

修了式：8月上旬

- ⑥ 研修科目の概要

以下の3種類を主として実施する。

- (1) 日本語能力向上のための必修科目
- (2) 日本に触れるアクティビティ系の  
科目
- (3) 就職に関連する科目

合計28単位以上とする。

### 1) 必須科目

- ①日本語 8科目8単位
- ②日本事情 2科目2単位

### 2) 見学、地域交流等の参加型科目

- ①異文化理解演習 3科目6単位
- ②日本語交流体験
  - ・日本語ボランティア部員との日本語会話、交流
  - ・ホームステイ体験
  - ・幼稚園見学、園児との交流
  - ・中学校・高校見学、生徒との交流
  - ・うらじゃ祭り、裸祭り見学
  - ・日本語弁論大会参加または見学
- ③就職活動体験
  - ・就職説明会への参加
  - ・企業訪問
  - ・就職懇談会への参加

②と③で4単位

### 3) その他の講義、選択科目等

以下の①～③から選択 4科目8単位以上

- ①日本を知る科目  
日本の歴史、日本文学、古文書、日本文化など
- ②日本と諸外国の交流について知る  
日中交流史、韓国の歴史と文化など
- ③その他  
心理系、ビジネス系、情報系の科目

### ⑦ 年間行事（日研究生用）

- |     |  |
|-----|--|
| 1月  | 県内または近隣県の日本文化<br>施設見学                  |
| 2月  | 裸祭り見学                                  |
| 3月  | 卒業式見学                                  |
| 4月  | 入学式見学<br>留学生歓迎会参加<br>大学新入生歓迎1日旅行参加     |
| 5月  | 幼稚園見学、園児と交流                            |
| 6月  | 中学校・高校見学、生徒と交流                         |
| 7月  | 大学間協定校の学生来学、交流                         |
| 8月  | うらじゃ祭り見学                               |
| 9月  | ホームステイ体験                               |
| 10月 | 大学祭参加                                  |
| 11月 | 留学生1日旅行参加<br>就職懇談会参加<br>日本語弁論大会参加または見学 |
| 12月 | 就職活動体験<br>(就職支援バス：広島または<br>大阪)         |

⑧ 指導体制

- ・国際交流委員、日本語担当教員が主になって指導する。
- ・日本語ボランティア部の部員（主に総合人間学部言語文化学科の学生）が交流の計画を立てたりサポートしたりする。

⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

コースの修了要件  
28単位以上取得

修了証書  
大学から発行

■宿 舎

留学生向けの寮はありませんが、大学の近くにはアパートが多くあり、大学で紹介することが可能です。

家賃は30,000円前後からありますが、入居時に敷金、礼金が各1か月分程度必要です。（敷金は退出時にほぼ全額返金されます。）

■修了生へのフォローアップ

現時点ではありませんが、将来的には留学生のネットワークを構築する予定です。

学生は、卒業後、各自でネットワークを作ったり、ゼミによっては、ゼミ担当教員がゼミ学生とのネットワークを構築し、フォローアップを行っています。

■問い合わせ先

(担当部署)

山陽学園大学国際交流委員会

住所 〒703-8501

岡山県岡山市平井1-14-1

TEL +81-86-272-6254 (代表)

FAX +81-86-273-3226 (代表)

E-mail [chie@sguc.ac.jp](mailto:chie@sguc.ac.jp) (担当者)

大学ホームページ

<http://www.sguc.ac.jp/>

英語、中国語、韓国語、ベトナム語の簡易バージョンがあります。

\*希望する方には、日本語、英語の大学案内を送ることができます。





# 高知大学 (高知県)



受入学部である人文学部は、21世紀の情報化社会に対応し、国際的な視野に立って、地域や国際社会に貢献できる人材育成を目標に教育を行っています。

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

高知大学は、1949年高知師範学校、高知青年師範学校等を包括して新制大学として設立されました。2003年10月、それまでの高知大学と高知医科大学が統合し、新たな高知大学となり、翌年4月には国立大学法人高知大学として、人文学部、教育学部、理学部、医学部及び農学部の5つの学部と大学院をもつ総合大学へと生まれ変わりました。

高知大学は、太平洋を南に臨み、四国山脈を背に四季の変化に富んだ高知県の中央、高知市に位置し、自由と寛容な気質を背景に、より高等な教育、研究活動を行っています。高知大学には、高知市の朝倉キャンパスと南国市の物部キャンパス及び岡豊キャンパスの3つのキャンパスがあり、日本語日本文化研修生は、人文学部のある朝倉キャンパスに通います。

### ②国際交流の実績（平成23年5月1日現在）

大学間協定校—44機関（14カ国）

部局間協定校—22機関（13カ国）

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2011年：留学生数 157人

2010年：留学生数 143人

2009年：留学生数 141人、日本語・日本文化研修留学生 2人

### ④ 地域の特色

高知県は、西日本に位置する四国の南部にあり、北は四国山脈がちなり、南は太平洋に面しています。年間を通じて暮らしやすい温暖な気候で、四季折々の豊かな自然を楽しむことができます。また、親しみやすい地方文化にも恵まれています。自由民権発祥の地として、近代日本の形成に大きな役割を果たした土地でもあります。高知市街には鏡川が流れ、市内随所に歴史的な観光名所があります。交通事情も急速に改善され、空路を利用すれば大阪空港まで45分、東京（羽田）空港まで1時間15分で行くことができます。空路のほかにも、長距離バス、鉄道、などが利用できます。

## ■コースの概要

### ① コースの特色

コース：日本語・日本文化

特色：受入学部である人文学部は、21世紀の情報化社会に対応し、国際的な視野に立って、地域や国際社会に貢献できる人材育成を目標に教育を行っています。人文学部は、人間文化学科・国際社会コミュニケーション学科・社会経済学科の3学科から成り立っています。人文学部では、共通教育科目としての日本語・日本事情科目を開放し、また帰国後日本語教師を希望する学生のために日本語教員養成コースの授業も開放しています。

また、もっと基本的な日本語力や日本文化などを学びたい学生のためには、国際・地域連携センター国際連携部門が開講している各種基礎講座受講も可能です。

以上のように、日本語の自由な運用能力を養成するとともに、日本人学生との専門授業を通じた多文化共生のための日本語・日本文化習得を目指しています。

### ② 受入定員 5名

### ③ 受講希望者の資格、条件等

#### a) 日本語能力

授業を受講するのに十分な能力を有すること。

日本語能力が日本国際教育協会が実施する「日本語能力試験」2級（N2）以上またはこれと同等の日本語能力を有する者

#### b) 日本研究学習歴・専攻

日本語・日本文化に関する分野を専攻する者

#### ④ 達成目標

日本語による討論と論文作成能力の育成。  
母国では実施できない研究の遂行。

#### ⑤ 研修期間

2012年10月1日 ~ 2013年9月30日

#### ⑥ 研修科目の概要

##### 授業科目

(1コマ=2時間×15週+テスト2時間=32H)

- ・ 共通教育で開講される  
日本語・日本事情科目 (9コマ)
- ・ 人文学部で開講される  
日本語教員養成関連専門科目 (8コマ)
- ・ 異文化理解・多文化共生関連科目 (6コマ)
- ・ 必要と認められるその他の科目 (上限無し)

##### 1) 必修科目

日本社会論(30h)、日本文化論(30h)  
基礎ゼミナール(30h)

##### 2) 選択科目

##### 共通教育科目：

日本語Ⅰ (60h)  
日本語Ⅱ (60h)  
日本語Ⅲ (60h)  
日本語Ⅳ (60h)  
日本語Ⅴ (60h)  
日本事情Ⅰ (30h)  
日本事情Ⅱ (30h)  
日本事情Ⅲ (30h)  
日本事情Ⅳ (30h)

##### 人文学部科目：

##### \*留学生用科目

日本語オーラルコミュニケーション(中級・上級) (30h)  
現代日本語読解研究 (30h)  
現代日本語読解研究中級 (30h)  
日本語テキスト構成研究 (30h)  
日本語テキスト構成研究中級 (30h)  
日本語メディア論 (30h)  
日本語メディア論演習 (30h)  
日本語ラボラトリー実習 (30h)

##### \*日本人学生との混合科目：

日本文化論特講 (30h)  
日本語教育法 (30h)  
外国語としての日本語 (30h)  
外国語としての日本語演習 (30h)  
異文化共有論 (30h)  
社会言語学(30h)  
日本社会論特講 (30h)

##### 3) 見学、地域交流等の参加型科目

- ・ 「異文化理解」授業での歴史文化施設見学(前後期各2回)
- ・ 高知県国際交流協会との懇親行事に参加
- ・ 外国人留学生課外活動(年1回)



地域のお祭りに参加

##### 3) その他の講義、選択科目等

国際・地域連携センター国際連携部門では、「日本語能力試験」N2未満の者に対する日本語補講授業(単位不認定科目)を開講しています。日本語・日本文化研修留学生の内、日本語能力が不十分で、日本語補講科目の受講を必要とする者は受講することができます。

国際・地域連携センター国際連携部門による日本語総合コース(日本語補講)で開講している科目は以下の通りです。

##### ・ 日本語補講授業科目

初中級文型(30h)  
初中級文法(30h~60h)  
中級聴解・会話Ⅰ(30h)  
中級聴解・会話Ⅱ(30h)  
中級漢字・語彙Ⅰ(30h)  
中級漢字・語彙Ⅱ(30h)  
中級読解(30h)  
中級作文(30h)  
中級日本文化事情(30h~60h)  
アカデミック日本語Ⅰ(30h)  
アカデミック日本語Ⅱ(30h)

## ⑦ 年間行事

- 4月 新入留学生オリエンテーション
- 10月 新入留学生オリエンテーション
- 11月 外国人留学生課外研修
- 12月 外国人留学生交流懇談会

その他：地域の国際交流団体等が主催する留学生向け各種イベントを紹介します。（ホームステイ、着物着付け体験、紙すき体験等）  
地域住民と交流できるイベントにも参加できます。

## ⑧ クラス編成

- ・留学生のみの日本語・日本事情科目
- ・日本人との混合クラス
- ・国際・地域連携センター国際連携部門による日本語総合コース（日本語補講）は、プレースメントテストを行い、能力別に編成します。

## ⑨ 指導体制

責任教員：人文学部長  
担当教員：人文学部教員  
協力教員：国際・地域連携センター  
国際連携部門教員  
個別指導：必要に応じて指導教員が行います。

## ⑩ コースの修了要件、修了証書の発行

研究報告書作成並びに研究発表会  
単位認定…学期（2学期制）毎に単位認定を行っています。  
単位互換…交流協定を結んでいる大学の在籍者は、特別聴講学生として受け入れ、単位互換を行っています。

## ■ 宿 舎

### 朝倉キャンパス

女子寮（3部屋） 約 7,500円

キャンパスから寮まで自転車で10分。

○ 宿舎設備・備品

※寮：机・椅子・ベッド・ロッカー・本棚・共同自炊設備・共同バス・トイレ

多くの学生が、大学周辺の民間アパートに入居しています。  
（家賃月額2万円～5万円）

## ■ 修了生へのフォローアップ

終了後もメールなどで連絡を取り合い、可能であれば、窓口教員が協定校を訪問し、留学後の学習状況についての懇談を計画しています。

## ■ 問い合わせ先

（担当部署）  
高知大学研究協力部地域連携課国際連携室  
大学所在地：780-8520 高知県高知市曙町2-5-1  
TEL：088-844-8145  
FAX：088-844-8718  
E-MAIL：kt07@kochi-u.ac.jp  
URL：http://www.kochi-u.ac.jp/



うどん作り

（外国人留学生課外研修）



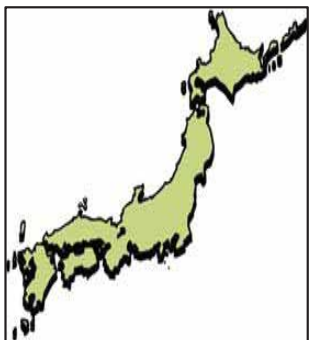
タイの伝統的な踊り

（外国人留学生交流懇談会）



郷土料理実演販売

（物部キャンパス一日公開）



# 福岡教育大学 (福岡県)



「日本語」「日本事情」などの留学生対象科目を履修しながら、各自の専門領域を学修し、さらに留学生対象の多様なプログラムによって、日本に関する総合的な理解を深める。

## ■大学紹介

### ○ 大学の特色および概要

本学は、九州で唯一の教員養成単科大学で、教育学・心理学・障害児教育学・各教科教育学のほか、人文・社会・自然・芸術・スポーツ科学・家政学等、教科内容に関する多様な専門学術分野の教員を擁する大学である。

・ 学生・教員現員	(2011年5月1日現在)
学生	
学部レベル	2,871人
大学院レベル	211人
教員	194人

### ○ 国際交流の実績

・外国人留学生数	81人(8カ国)
・国際交流協定校	7校

### ○ 過去3年間の日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2011年:	留学生数81人、日本語・日本文化研修留学生2人
2010年:	留学生数92人、日本語・日本文化研修留学生3人
2009年:	留学生数76人、日本語・日本文化研修留学生2人

## ■コースの概要

### ○ コースの特色

本コース生は、留学生対象の授業を履修し、さらに各指導教員のもとでの専門分野の学修を通じて、日本語と日本文化に関する総合的な研修を行う。

日本語教育レベルは、JEES(日本国際教育支援協会)の日本語能力試験「N2レベル」程度である。学期始めの日本語プレテストにより、留学生担当教員において各人の能力に応じたクラス(初級Ⅰ、初級Ⅱ、初中級と漢字クラス、中級(聴く・話す)、中級(読む・書く)、上級、個別指導)を判定し、「推奨授業一覧」として通知する。

### ○ 受入定員

全学で 10 名程度の受け入れを予定

国語教育講座	社会科教育講座
英語教育講座	福祉社会教育講座
国際共生教育講座	数学教育講座
理科教育講座	技術教育講座
音楽教育講座	美術教育講座
保健体育講座	家政教育講座
学校教育講座	教育心理学講座
幼児教育講座	生活総合教育講座
特別支援教育講座	

### ○ 受講希望者の資格、条件等

- ・原籍大学で、日本語や日本文化に関する領域を専攻していること。
- ・日本語能力は、一般的事柄について会話ができ、文章が正確に読み書きできること。

### ○ 研修期間

2012年10月～2013年9月  
(2012年度後期～2013年度前期)

### ○ 研修科目の概要

#### 1) 必修科目

- ・「日本語」  
学部留学生レベルの「話す・聴く」「読む・書く」能力それぞれを高めるためのトレーニングを行う。
- ・「日本事情A・B」  
日本の文化、社会についてのテーマを掘り下げていくために、見学、インタビュー等様々な方法で周囲の意見を取り入れ、日本についての認識を深め、それによって自分自身の持つ文化的特徴をも把握していくことを目標とする。
- ・「ホームルーム」
- ・コース修了時の研究発表



「研究発表会」

## 2) 選択科目

- ・「日本の教育制度A・B」  
B(後期開講)では、日本の歴史を踏まえながら、古代から現代までの教育の歴史を国際教育交流史の視点から概観する。  
A(前期開講)では、現代の日本の教育制度に関わるキーワードをひとつずつ学習しながら、日本の教育制度の特色を理解する。
- ・「比較教育文化論A・B」  
文化、習慣の違いからくるトラブル事例(留学生や日本人の体験した)を学び、カルチャーショックを予防する。  
日本の教育の背景にある、文化的特性を考察することで、日本人や日本社会及び教育文化の特色について理解する。
- ・「異文化交流の心理学」
- ・「異文化間心理学」  
後期・前期ともに、日本学生との合同授業である、毎回あるテーマ(食べ物、自分の将来など)やトラブル事例(割り勘とか弁当など)をめぐる留学生と日本人学生とが小グループディスカッションを行い、出会い体験をする。また、留学生自らも母国についてのレクチャーを行なう。留学や移民などの異文化接触に伴う心理的過程や育児文化等についても学ぶ。
- ・「日本語補講」  
初級Ⅰ、初級Ⅱ、初中級、漢字、個別指導(初級の理解を助ける/上級の理解を伸ばす)
- ・「日本理解特別プログラム」  
本学教員、学外講師等が各専門分野から、日本理解に期する講義をオムニバス形式で行う日本理解のための講義・見学プログラム

なお留学生対象授業等に関するより具体的な内容については、

福岡教育大学ホームページ <http://www.fukuoka-edu.ac.jp>

記載の、留学生ガイドブック「ようこそ日本へ！はじめの一歩」等を参照して下さい。

### ○指導体制

#### ・指導教員

: 専門分野に関わる指導、研究発表および最終レポート作成の指導、学修や日本生活に関わる相談

#### ・留学生担当教員

: 留学生対象必修科目・選択科目の授業担当、授業分野に関わる指導、「日本理解特別プログラム」の実施・運営、「ホームルーム」の実施・運営、学修や日本生活に関わる相談

### ○コースの修了要件・修了証の発行

指導教員、留学生担当教員の指導のもと、専門的観点から独自に研究テーマを設定し、コース修了時に最終レポートを提出、研究発表を行う。このレポート及び履修科目、ホームルーム出席状況等についての、指導教員、留学生担当教員による総合的評価をもとに、コース修了証の授与を受けることができる。

### ○単位認定、単位互換

・授業における単位認定(「日本語補講」を除く)については、当該授業の成績評価による。取得単位は原籍大学に持ち帰り、単位互換の認定審査を受けることができる。

### ○単位習得証明書

・履修する全科目(「日本語補講」を除く)について発行可能。

## ■ 宿舎

- ・九州大学国際交流会館
  - ・福岡教育大学学生寮
  - ・大学近辺の民間アパート等に入居可能
- 過去3年間の日研究生は、全て九州大学国際交流会館に入居している。

## ■ 修了生へのフォローアップ

- ・修了後、留学生から相談のある際は、個別に対応している。

### ○その他

以上の他、「日本理解特別プログラム」の一環としての宿泊研修、日帰り見学研修、地域の学校やコミュニティとの交流行事など、外国人留学生のための様々な研修行事がある。

## ■ 問い合わせ先

〒811-4192

福岡県宗像市赤間文教町1番1号

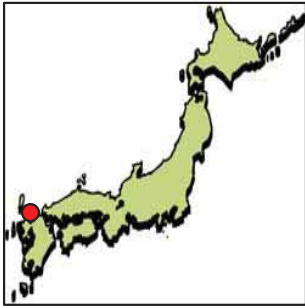
福岡教育大学連携推進課

TEL: +81-904-35-1247

FAX +81-940-35-1700

E-mail: ryugak01@fukuoka-edu.ac.jp

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp>



# 九州大学 (福岡県)



きめ細やかなサポート体制のもと、充実した日本語クラスと各学部の授業を“自由に”選択できます。

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

九州大学は、1911年に九州帝国大学として誕生して以来、約1世紀にわたって、多くの人材を世に送り出し、顕著な研究成果を社会に発信し続けている。現在、学生約19,000名、教員約2,200名、職員約2,700名が在籍し、11学部、18大学院、3附置研究所、病院などを擁する我が国屈指の総合大学である。

九州大学は、「新科学領域への展開」と「アジア指向」という将来構想を二本柱として、「研究」、「教育」、「社会連携」、「国際連携」という4つの活動分野に重点をおき、様々な活動を展開している。

とりわけ、九州大学は、九州の玄関口、福岡に位置することから、地理的・歴史的にアジアに近く、開学当初から「アジアに開かれた大学」を標榜している。

また、福岡市西部に九州大学の新たな中心となる新キャンパス（伊都キャンパス）が開校し、2005年10月から工学系から順次移転している。

【学部】文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、芸術工学部、農学部

【大学院】人文科学府、比較社会文化学府、人間環境学府、法学府、法務学府（法科大学院）、経済学府、理学府、数理学府、システム生命科学府、医学系学府、歯学府、薬学府、工学府、芸術工学府、システム情報科学府、総合理工学府、生物資源環境科学府、統合新領域学府

### ② 国際交流の実績

【交流協定締結数】（2011.5.1現在）

〈学術交流協定〉

大学間：110機関（27ヶ国・地域）

部局間：203機関（40ヶ国・地域）

〈学生交流協定（覚書）〉

大学間：108機関（25ヶ国・地域）

部局間：103機関（29ヶ国・地域）

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績（各年11月1日時点）

2011年：留学生数2,078人

日本語・日本文化研修留学生44人（内、私費留学生32人）

2010年：留学生数1,995人

日本語・日本文化研修留学生29人（内、私費留学生23人）

2009年：留学生数1,763人

日本語・日本文化研修留学生29人（内、私費留学生21人）

### ④ 地域の特徴

九州大学がある福岡市は、九州の北部に位置し、人口約145万人の商業・貿易都市であり、地理的・歴史的に日本とアジア地域を結ぶ窓口としての機能を果たしている。

福岡空港には、アジアの主要都市からの航空機が飛来し、また、東京からの便も豊富（羽田発福岡行きは1日46便、成田発福岡行きは1日5便）であるため、世界各都市から福岡までのアクセスもよい。

ちなみに、東京ー福岡は約90分のフライトであるのに対し、例えばソウルー福岡は約80分、釜山ー福岡は約50分である。

## ■コースの概要

### ① コースの特色

九州大学日本語・日本文化研修コースは、留学生センターが開設するもので、日本語・日本文化研修留学生が、今後の日本研究に必要な日本語能力の向上を図るとともに、日本の社会や文化に関する理解を深めることを目的としている。

日本語・日本文化研修留学生は留学生センターに所属し、センターで開講する「文献講読」、「日本語（上級）」といった必修科目及び選択必修科目である「日本文化論」の他に、各自の日本研究に関する専攻分野と日本語能力に応じて、文学部、経済学部、法学部などで開講される日本の社会や文化に関する学部学生向けの授業を選択科目として受講することができる。

さらに、留学生センターで開講する技能別の日本語の授業（総合、漢字、会話、読解、作文）も受講することができる。

### ② 受入定員

40名（内、大使館推薦10名程度、大学推薦2名程度、他私費留学生）



<授業風景>

③ 受講希望者の資格、条件等

本コースは、日本国以外の大学に在籍し、日本研究を専攻としている学部学生（1年次生を除く。）で、既に基礎的な日本語の学習を終え、本学において日本語で行われる日本の社会や文化に関する授業を受講できる日本語能力（日本語能力試験N1合格程度が望ましい）を有する者を対象とする。

④ 達成目標

履修した科目は、履修認定が行われ、所定の要件を満たした日本語・日本文化研修留学生には、修了証書を授与する。

⑤ 研修期間

2012年10月1日 ~ 2013年9月30日  
修了式は8月を予定（2011年は8月）

⑥ 研修科目の概要

1) 必須科目

日本語・日本文化研修留学生は、1年間に、次表に掲げる必修科目及び選択必修科目のすべて（16単位）と選択科目のうちから4単位以上を習得しなければならない。

	授業科目	第1期(10-3月)	第2期(4-9月)
必修科目	文献講読	2単位(30時間)	
	日本語(上級)	6単位 (180時間)	4単位 (120時間)
選択必修科目	日本文化論	4単位(60時間)以上	
選択科目	日本の社会や文化に関する学部学生向け授業 (注)	4単位(60時間)以上	

(注) 選択科目は本学の学部学生を対象に全学教育科目として開講されている授業科目及び文学部、法学部、経済学部などにおいて専門教育科目として開講されている授業科目の中から、本コースのコーディネーターの指導のもとに、各自の日本研究に関する専攻分野と日本語能力に応じて選択の上、受講する。

さらに、留学生センターで開講する以下の技能別・レベル別の日本語クラスを受講することができる。

	総合	漢字	会話	読解	作文	専門日本語	ビジネスマナー
入門	J1 週3回						
初級1	J2 週3回	K2 週2回	S2 週2回				
初級2	J3 週3回	K3 週2回	S3 週2回				
中級入門	J4 週3回	K4 週2回	S4 週2回				
中級1	J5 週2回	K5 週2回	S5 週2回				
中級2	J6 週2回	K6 週2回	S6 週2回	R6 週2回			
上級入門	J7 週2回	K7 週2回	S7 週2回	R7 週2回	W7 週2回		
上級	J8 週1回	K8 週2回	S8 週2回	R7 週2回	W8 週2回	T8 週1回	集中講義

2) 見学、地域交流等の参加型科目

大学の教育活動の一環として、コース期間中に数回、福岡近郊や九州地域などを巡る見学旅行を実施し、日本の文化や歴史、自然に触れる機会を提供する。

また、自治体や学校、国際交流団体などが実施する様々なイベントに参加することにより、地域との交流を促進するとともに、研修の効果を上げる。

⑦ 年間行事（主なもの）

- 10月 開講式・秋学期開始  
見学旅行
- 12月 地域住民との交流会
- 1月 福岡市内中学校との交流会
- 2月 秋学期終了
- 4月 春学期開始  
日帰り見学旅行
- 8月 春学期終了・閉講式



<見学旅行 熊本・阿蘇>



<地域住民との交流会>

## ⑧ 指導体制

日本語・日本文化研修留学生には、留学生センターの教員がコース・コーディネーターとして各自の学業面等について個別指導にあたる。

さらに、生活面や異文化適応に関しては、留学生指導に関する専門の教員が適宜対応する。

加えて、学生レベルでのサポート体制として、日本人学生によるチューターを1名ずつ配置し、日常生活や修学上のサポートを行うとともに、日本人学生との交流が図れるような環境を整えている。

## ⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

履修した科目は、履修認定が行われ、所定の要件を満たした日本語・日本文化研修留学生には、修了証書を授与する。



<日本語・日本文化研修コース閉講式>

## ■宿 舎

日本語・日本文化研修留学生は、コース期間中、留学生センターがある箱崎キャンパスから自転車で15分ほどの距離（約3km）にある留学生用宿舎（国際交流会館（香椎浜））に入居できる。

国際交流会館（香椎浜）には、単身室170室、夫婦室39室、家族室34室があり、多くの留学生が居住している。なお、夫婦室及び家族室についてはシェアルームとして使用することもある。

宿舎は、バス・トイレのほか、机、書棚、ベッド、衣料タンス、冷蔵庫、エアコンなどを備えている。

※宿舎の詳細については、以下のホームページを参照すること。

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/supportcenter/housing/on/main.html>



<国際交流会館(香椎浜)>

## ■修了生へのフォローアップ

九州大学日本語・日本文化研修コースは、本学の英語による短期留学プログラムであるJTW（Japan in Today's World）とともに、日本語による短期留学プログラムとして国内外で高い評価を得ている。また、本コース修了者の満足度は高く、その多くが在籍大学卒業後、再び本学や日本の大学院に進学したり、日本企業に就職する等している。

## ■問い合わせ先

（コース・コーディネーター）

留学生センター・准教授 郭俊海

E-mail: [kakujh@isc.kyushu-u.ac.jp](mailto:kakujh@isc.kyushu-u.ac.jp)

（担当部署）

九州大学国際部留学生課留学生交流係

住所 〒812-8581 福岡県福岡市箱崎6-10-1

TEL +81-92-642-2141（直通）

FAX +81-92-642-2144

E-mail [intlrkoryu@jimu.kyushu-u.ac.jp](mailto:intlrkoryu@jimu.kyushu-u.ac.jp)

九州大学留学生センターホームページ

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/center/home.htm>

九州大学ホームページ

<http://www.kyushu-u.ac.jp/>

日研生ホームページ

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/jlcc/Japanese/index.html>



# 佐賀大学 (佐賀県)



アジアの中の日本, 世界の中の日本, 地域から見える日本を学ぶ

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

佐賀大学は、自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めています。学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界へ発信しようとしています。そして、アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献しています。

(学 部) 文化教育学部, 経済学部, 医学部, 理工学部, 農学部  
学部生数 6,210名  
(大学院) 教育学研究科, 経済学研究科, 医学系研究科, 工学系研究科, 農学研究科  
大学院生 997名

### ② 国際交流の実績

世界各国・地域の137大学と交流協定を締結しています。現在、本学には287名の留学生が在籍しています。2009年度および2011年度には、ベトナムからの日研生(大使館推薦)を1名ずつ受け入れています。

静かで歴史豊かな佐賀の生活ば  
体験してみんしゃい



### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績(11月1日現在)

2011年度: 留学生数 287人, 日本語・日本文化研修留学生 1人  
2010年度: 留学生数 307人, 日本語・日本文化研修留学生 0人  
2009年度: 留学生数 325人, 日本語・日本文化研修留学生 1人

### ④ 地域の特徴

佐賀県は、九州の北西部に位置し、人口は約85万人です。佐賀大学のある佐賀市は、佐賀県の中央に位置する県庁所在地で、人口は約23万人の静かな町です。佐賀市は、豊かな水の恵みを受けた町です。佐賀市の北には天山・背振山、南には有明海が広がっています。



佐賀は、自然が豊かな住みやすい町です。気候は温暖で、年間の平均気温は17度、四季折々の自然の美しさを満喫することができます。

春には、満開の桜の花吹雪、夏には、楠の木の鮮やかな緑と夜空を彩る花火を見ることができます。また、秋には、黄金色の水田を背景に、カラフルな気球(バルーン)が青い空を舞い、冬には、日本有数の生産量を誇る海苔の収穫を見ることができます。

佐賀の人々は国際交流に大変熱心で、インターナショナルバルーンフェスタをはじめ、様々な交流イベントを企画しています。また、佐賀は陶磁器でも非常に有名で、有田、唐津などの焼き物の産地があります。特に「伊万里」の名で知られる佐賀の焼き物は、江戸時代に200年以上、長崎の出島からオランダの東インド会社によって、世界へ向けて輸出されました。

## ■コースの概要

### ① コースの特色

本コースは、佐賀大学留学生センターが開設するもので、日本語・日本文化研修生が、より高い日本語能力を身につけ、日本の社会や文化についての知識と理解を深めることを目的としています。

佐賀の美しい自然や心温かい人々の支援に囲まれながら、日本語や日本文化の専門研修、実践的な日本語研修ができるコースです。

研修生は、各自の専攻分野や日本語能力に応じて、本学学部留学生のための教養教育科目や、文化教育学部で開講される日本語学や日本語教育学、日本文学、日本史、佐賀学等に関する学部学生向けの科目を日本人といっしょに受講することができます。チュートリアル・セッションなど、佐賀大学の学生との個別学習を行う機会もあります。これらの授業や活動を通して、日本語の実践的な運用能力が身につきます。

また研修生は、自主研究を行い、小論文を作成することもできます。

さらに、留学生センターが実施する各種の日本文化体験研修にも参加できます。

専門の指導は、文化教育学部と連携をとって行っています。

所定のコースを修了した場合は、修了証書及び成績証明書が発行されます。

## ② 受入定員

5名（大使館推薦，大学推薦あわせて）

## ③ 受講希望者の資格，条件等

1) 日本以外の国の大学に1年以上在籍し，主専攻あるいは副専攻が日本語，日本文化など日本に関する分野である学部学生。

2) 約600時間以上の日本語学習歴を持っていること（JLPT 2級合格程度が望ましい。）

## ④ 達成目標

日本語や日本文化について幅広い知識を身につけること。

日本社会に親しむこと。

自国で専門研究するための基礎能力を養うこと。

研修生の帰国後のキャリア選択に役立つ実践的な日本語運用能力を身につけること。

## ⑤ 研修期間

2012年10月1日～2013年9月30日

秋学期：2012年10月1日～2013年3月31日

春学期：2013年4月1日～2013年9月30日

修了式は8月を予定

## ⑥ 研修科目の概要

本コースで研修を受ける研修生は，教養教育運営機構および文化教育学部が開講する授業の中で，定められた「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」を履修しなければなりません。

必修科目は，教養教育運営機構が提供する留学生関連の科目です。

選択必修科目は，教養教育運営機構が提供する文化と芸術に関する科目群の中から研修生が選択します。

選択科目は，日本語／日本語教育，日本文学，日本史／日本文化，佐賀学の中から，コーディネーター，指導教員と相談して，受講科目を決定し，履修します。

その他，教養教育運営機構が提供する短期留学生のための日本語コース（初級レベルから上級レベルまで）も，レベルに応じて受講することができます。さらに，研修生は自主研究を行うことができます。

### 1) 必修科目（各期4単位以上）

授業科目	単位数と時間数	
	I期 (10月～3月)	II期 (4月～9月)
日本語 I 及び日本語 II	2単位 (60時間)	2単位 (60時間)
日本事情	2単位 (30時間)	2単位 (30時間)

\* 必修科目の「日本語」については，プレイスメントテスト及び面接の結果，研修生の日本語能力に応じた日本語のクラスを受講することができます。

\* 科目の名称などは変更されることがあります。

### 2) 選択必修科目

教養教育主題科目第一分野の科目の中から2単位以上，取得しなければなりません。

### 3) 選択科目

指導教員やコーディネーターと相談の上，本学の教養教育運営機構並びに文化教育学部が開講している授業科目の中で，

- A) 日本語／日本語教育
- B) 日本文学
- C) 日本史／日本文化
- D) 佐賀学

に関わる分野の中から，研修生に必要な科目を，I期II期合わせて8単位以上，選択科目として受講することができます。



#### 4) その他

上記の必修、選択科目のほか、教養教育運営機構が提供する短期留学生のための日本語コースの中から、レベルにあった科目を受講することができます。さらに、留学生センター、または文化教育学部の特任教員の指導のもと、自主研究を行うことができます。



#### ⑦ 年間行事予定

- |     |  |
|-----|--|
| 10月 | 開講式<br>オリエンテーション<br>ハロウィンパーティ          |
| 11月 | バルーンフェスティバル参加<br>日本文化体験研修旅行            |
| 2月  | 日本文化体験研修                               |
| 3月  | 春休み                                    |
| 4月  | 春学期開始<br>日本文化体験研修旅行                    |
| 5月  | 新入留学生歓迎会<br>ガタリンピック参加<br>ホームステイ体験プログラム |
| 6月  | 日本文化体験研修                               |
| 8月  | 夏休み<br>栄の国祭り参加<br>修了式                  |

#### ⑧ 指導体制

##### 1) コースコーディネーター

留学生センター留学生教育研究部門  
准教授 中山 亜紀子  
(E-mail: anakayam@cc.saga-u.ac.jp)

2) 研修生の日本での生活面に関しては、本学の保健管理センターとの連携体制をとりながら、留学生センター留学生教育研究部門の特任教員が対応しています。

3) 研修生には、学生チューターが1名ずつつきます。学生チューターは、日常生活、勉強上のお手伝いや、日本人学生と交流を図るお手伝いをしてくれます。

#### ⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

必修科目については、各期4単位以上、選択必修科目については、年間2単位以上、選択科目については年間8単位以上の取得が修了のために必要です。コースの修了者に対し修了証明書及び成績証明書を発行します。

#### ■宿 舎

大学の敷地内に留学生用の宿舎、国際交流会館があります。(単身室 7,200円/月、夫婦室 11,000円/月、家族室 13,500円/月)

この他に、大学周辺に留学生のための良質で家賃の安いNPO法人国際下宿屋(月額2万円程度)や公営住宅、民間のアパートがあります。

(ちなみに、今まで本学で受け入れた研修生は、民間のアパートに入居しました。

#### ■修了生へのフォローアップ

佐賀大学に留学した研修生は、母国の大学を卒業した後、佐賀大学で学んだことを生かして、母国の日系企業で働いています。

また、佐賀大学に短期留学した学生たちの中には、母国の大学を卒業した後、佐賀大学の大学院に進学した学生が数多くいます。

佐賀大学の学部を卒業した留学生は、県内外の企業(スズキ株式会社やヤマト運輸など)に就職したり、母国で就職したり、また、佐賀大学や他大学の大学院に進学しています。



#### ■問い合わせ先

(担当部署)  
佐賀大学学術研究協力部国際課  
住所 〒840-8502  
佐賀県佐賀市本庄町1番地  
TEL +81-952-28-8389 (直通)  
FAX +81-950-28-8819  
E-mail ryugaku@mail.admin.saga-u.ac.jp

佐賀大学留学生センターホームページ  
<http://www.isc.saga-u.ac.jp/>  
佐賀大学ホームページ  
<http://www.saga-u.ac.jp/>  
日研生ホームページ  
<http://www.isc.saga-u.ac.jp/nikkensei/>



# 長崎大学 (長崎県)



研修生の専攻に応じた教育学、経済学、環境科学の分野の科目を受講することができるとともに、研修生の日本語能力に応じた日本語・日本事情の科目を受講することもできる。

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

長崎大学は、教育学部、経済学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境科学部、水産学部を持つ総合大学であり、6つの大学院(教育学研究科、経済学研究科、工学研究科、水産・環境科学総合研究科、医歯薬学総合研究科、国際健康開発研究科)と1つの研究所(熱帯医学研究所)を有し、教員数約1,200人、学生数約9,200人の国立大学である。

本学は、長崎に根づく伝統的な文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献することを理念としている。

日本語・日本文化研修生という1年間の留学目的や身分に配慮し、本学の3つの学部(教育学部、経済学部、環境科学部)のうちから研修生の母国における専攻分野の学業目標達成を最も効率的に支援できる学部にも所属してもらい、当該分野の指導教員の履修指導に基づいて研修生の希望に沿った科目等を履修するとともに、研修生の日本語能力に応じた日本語・日本事情科目も履修できる教育カリキュラム体制を準備している。

### ②国際交流の実績

長崎大学は海外30カ国・地域にある113の交流協定校と締結しており、2011年5月1日現在、385名の留学生が所属する学部、研究科センター等の組織の中で勉学、研究に励んでいる。

### ③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2011年: 留学生数 385人、日本語・日本文化研修留学生 0人  
2010年: 留学生数 365人、日本語・日本文化研修留学生 1人  
2009年: 留学生数 363人、日本語・日本文化研修留学生 1人

### ④地域の特徴

本学がある長崎市は九州の西端に位置し、青く澄んだ海と緑豊かな山々に囲まれ、気候も温暖な都市である。長崎港は、200年間に及ぶ日本の鎖国時代にあってもアジア、西欧との交易のために日本で唯一開かれていた。長崎市民はこのような国際交流の伝統を受け継いでおり、開放的で人情味豊かであり、留学生にも親切である。

## ■コースの概要

### ①コースの特色

#### (a) 日本語科目A(上級)一選択

日本語上級 I A 後期 90分授業30回  
(テレビからとったビデオを視聴し、その内容を理解し、討論する力の向上を目指す)

日本語上級 II A 後期 90分授業30回  
(日本や日本人に関する様々な文章を素材にして、読む力、調べる力、発表する力の向上を目指す。)

日本語上級 I S 前期 90分授業30回  
(環境、高齢化社会、教育などの問題を題材にして、読む力、調べる力、書く力の向上を目指す。)  
日本語上級 II S 前期 90分授業30回  
(新聞、雑誌等の記事を読み、その内容について討論し、発表する力の向上を目指す。)  
(注1) 1コマ90分で、週2コマ開講する。  
(注2) 授業は、学部学生とともに受講する。

#### (b) 日本語科目B(中級～上級)一選択

中級 I 会話	前期及び後期	90分授業15回
中級 I 読解	前期及び後期	90分授業30回
中級 I 作文	前期及び後期	90分授業15回
中級 I 聴解	前期及び後期	90分授業15回
中級 I 漢字	前期及び後期	90分授業15回
中級 II 会話	前期及び後期	90分授業15回
中級 II 読解	前期及び後期	90分授業30回
中級 II 作文	前期及び後期	90分授業15回
中級 II 聴解	前期及び後期	90分授業15回
中級 II 漢字	前期及び後期	90分授業15回
上級 I 会話	前期及び後期	90分授業15回
上級 I 読解	前期及び後期	90分授業30回
上級 I 作文	前期及び後期	90分授業15回
上級 I 総合	前期及び後期	90分授業15回
上級 II 総合実践	前期及び後期	90分授業15回

(注) 授業は、他の留学生とともに受講する。

(c) 日本事情科目－選択

現代日本社会の様々な側面について学ぶことにより、日本社会についての知識を深める。

後期 90分授業15回

(注) 学部学生(日本人学生及び留学生)とともに受講する。

(d) 専門科目－選択

それぞれの専門に応じて、学部開講の科目を選択受講する。

(例) 国語学概論、国語学史、国文学概論、近代文学、国文学史、古典文学、小学校国語科日本史通説、日本書道史、比較文化論、環境教育、環境国際関係論、国際関係論、アジア経済論、国際経済学、国際金融関係論、日本企業論、世界の人口動向

(注) 学部学生(日本人学生及び留学生)とともに受講する。

② 受入定員

5名(大使館推薦3名、大学推薦2名)

③ 受講希望者の資格、条件等

(1) 日本語能力試験の2級以上に合格しているか、それと同等以上の日本語能力のある者。

(1年次在籍者を除く。)

(2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻している者。

④ 達成目標

(1) 日本語能力試験N1に合格、あるいは、合格相当以上の日本語能力を修得する。

(2) 日本文化の基礎知識を体得し、日本語により体系的に表現できる能力を育成する。

⑤ 研修期間

2012年10月1日 ~ 2013年9月30日

修了式は、挙行しない。

⑥ 研修科目の概要

教育学部:

教育に係る専門知識と技能を修得することにより、創造性豊かな探求能力と教育実践力を備えるための基礎能力を修得する。

経済学部:

経済に係る専門知識を体系的に修得することにより、経済社会の発展に資する基礎能力を修得する。

環境科学部:

人間・社会に係る現代的環境問題を科学的に分析し、環境共生社会の実現に資するための基礎能力を修得する。

留学生センター:

日本語上級レベルの日本語能力を修得することにより、母国での研修生の学士力養成の目的に応じた課題研究を遂行するための日本語能力を修得する。

1) 必須科目

専門科目の履修については、所属学部の指導教員による履修オリエンテーションに基づき、決定する。

日本語については全科目が選択科目である。

2) 見学、地域交流等の参加型科目

- ・ 雲仙・島原見学旅行
- ・ 平和学習バスハイク
- ・ 外国人留学生の集い

3) その他の講義、選択科目等

日本語・日本事情等の科目については、留学生センターにおいてプレースメントテストを受け、その結果に基づいて履修科目を決定する。また、全学教育が提供するモジュール科目(モジュールⅠ・モジュールⅡ)の履修については、希望者と相談の上、決定する。

## ⑦年間行事

10月	後期履修オリエンテーション
11月	平和学習バスハイク
12月	外国人留学生の集い
2月	後期授業終了
4月	前期履修オリエンテーション
5月	雲仙・島原見学旅行
8月	前期授業終了

## ⑧指導体制

各人の専門分野により、担当教員を定める。担当教員は各人の専門分野について適宜個別指導を行う。日本語の学習については、留学生センターの教員が指導・援助する。

## ⑨コースの修了要件、修了証書の発行

コースの修了要件は特に定めない。  
修了証書は発行しない。

## ■宿 舎

長崎大学には、国際交流会館(西町本館・A棟・B棟)及び坂本分館の4棟の留学生用宿舎が設置されている。但し、数に限りがあるため、希望者全員が入居できないこともある。その場合は、民間アパートを借りる。

留学生向けの居室数等は、以下のとおりである。

### ○宿舎数

・単身室	64室
・2人シェア	4室
・3人シェア	12室
・4人シェア	84室

### ○宿舎費

・単身室	¥8,177	¥11,384	¥20,589
・2人シェア	¥12,560	／人	
・3人シェア	¥12,516	／人	
・4人シェア	¥19,275	／人	

## ■修了生へのフォローアップ

学術研究等の相談があった時は、メール等でいつでも応じる体制を取っている。

## ■問い合わせ先

長崎大学研究国際部国際交流課  
〒852-8521 長崎市文教町 1-14  
TEL: 095-819-2121  
FAX: 095-819-2125  
Email: ryugaku@ml.nagasaki-u.ac.jp  
http: www.nagasaki-u.ac.jp

長崎大学ホームページ  
http://www.nagasaki-u.ac.jp

長崎大学留学生センターホームページ  
http://www.is.nagasaki-u.ac.jp





# 熊本大学 (熊本県)



日本語を学びながら日本文化に関するさまざまな分野の授業を日本人と一緒に受けて日本への理解を深めると共に将来の研究へ向けた基礎を作りましょう。

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

熊本大学は、嘉納治五郎、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)や夏目漱石も教鞭をとったことのある第五高等学校が母体になり、1949年5月にできた国立の総合大学です。現在、熊本大学には7学部・8大学院があり、学生が約10,000人、教職員が約2,100人います。



### ② 国際交流の実績

2011年10月1日現在、27か国110大学・機関と国際交流協定を結び、学生交流及び研究者交流を行っています。

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2011年：留学生数431人  
日研生2人(ポーランド・ラオス)  
2010年：留学生数377人  
日研生2人(ポーランド、中国)  
2009年：留学生数376人  
日研生2人(ポーランド・ラオス)

### ④ 地域の特色

熊本県は九州のほぼ中央にあります。東には世界一のカルデラで有名な阿蘇山、西には豊かな自然に恵まれた有明海や天草諸島があり、四季を通じて豊かな自然を楽しむことができます。市の中心には熊本城があり、その周りにはオフィス街や商店街など、にぎやかな所がたくさんあります。

## ■コースの概要

### ① コースの特色

各学生の目的に合わせ、2つのコースを準備しています。

- (1) 日本語能力向上コース
- (2) 日本事情・日本文化研究コース

### ② 受入定員

10名程度  
(大使館推薦7名、大学推薦3名)

### ③ 受講希望者の資格、条件等

日本語・日本文化を専攻し、自国の大学で少なくとも2年間日本語を学習していること。本学のレベル4以上(日本語能力検定N3-N2レベル程度)が望ましい。

### ④ 達成目標

- (1) 大学での研究や社会生活で必要とされる高度な日本語能力(日本語能力試験N1レベル相当)を身につける。
- (2) 日本語日本文化に関する専門分野の研究を行う上で必要とされる知識や技能(方法論)を身につける。
- (3) さまざまな体験を通じて、日本の社会や文化に対する知見を深める。

### ⑤ 研修期間

2012年10月1日 ~ 2013年9月30日  
\*9月末にオリエンテーションを行うので、指定する期間に渡日すること。



## (1) 日本語能力向上コース

科目群	取得単位数	備考
日本語科目	12単位	日本語科目12単位、日本事情科目2単位、研究科目6単位を含み1年間で各科目群から合計26単位以上を取得すること。
日本事情科目	2単位	
研究科目	6単位	
①日本語研究科目 ②日本文化研究科目 ③日本文学研究科目 ④日本社会研究科目	①~④の研究科目群から合わせて6単位以上を取得すること。	
自由選択科目	日本語科目、日本事情科目、研究科目の科目群から6単位以上を取得すること。	
* 修了レポートを提出し、口頭試問に合格すること。		

## (2) 日本事情・日本文化研究コース

科目群	取得単位数	備考
日本語科目	6単位	日本語科目6単位、日本事情科目2単位、研究科目12単位を含み1年間で各科目群から合計26単位以上を取得すること。
日本事情科目	2単位	
研究科目	12単位	
①日本語研究科目 ②日本文化研究科目 ③日本文学研究科目 ④日本社会研究科目	①~④の研究科目群から合わせて12単位以上を取得すること。	
自由選択科目	日本語科目、日本事情科目、研究科目の科目群から6単位以上を取得すること。	
* 修了レポートを提出し、口頭試問に合格すること。		

## ⑥ 研修科目の概要

日本語研究科目、日本文化研究科目、日本文学研究科目、日本社会研究科目があります。

### 1) 必須科目

#### <日本語科目>

日本語能力向上コース 12単位、360時間以上

日本事情・日本文化研究コース

6単位、180時間以上

「聞く・話す・読む・書く」の4技能について、日本語能力の向上を目指します。幅広いレベルのクラスが技能別に開講されています。学期はじめのプレースメントテストの結果や学生の希望に基づいて、受講するクラスを決めます。

#### [主な科目]

##### 中級読解

科学技術や社会問題、日本文化についての説明文を読んで、内容を理解する練習をする。

##### 中上級会話

上級レベルの会話力を身につけるために、さまざまな話題について説明や叙述の仕方を練習する。

##### 上級文章表現

実用的な文章が書けるようになること、論文・レポートが書けるようになることを目標とする。

#### <日本事情科目>各コース 2単位 30時間以上

日本の歴史、教育、言語、民俗、政治、法律や建築、機械、エネルギー、環境問題といった日本の科学技術について基本的な知識を学びます。

#### [主な科目]

##### 日本の文化と言葉

日本文化の様々なキーワードをテーマに、日本人学生と留学生のディスカッションを行い、日本的な常識やコミュニケーションの方法を学ぶ。

##### 日本の文化と社会

教育・近代日本の歩み・法律・熊本の民族文化・日本語と方言・政治風土をテーマに各学部の教員が授業を行う。

##### 日本の科学技術

日本の先端技術・建築文化・機械技術・環境問題などをテーマに各学部の教員が授業を行う。

(施設見学も実施)

### 2) 選択科目、その他

日本語能力向上コース 6単位 90時間以上

日本事情・日本文化研究コース12単位 180時間以上

#### <日本語研究科目>

日本語の文法・音声・音韻・語彙などを通時的・共時的に分析・考察する。

#### [主な科目]

##### 日本語学概論Ⅰ

日本語を共時的に研究するために必要な基礎知識を習得させることを目的とする。日本語の音韻・文法・語彙それぞれの分野を共時的な視点から扱う。

##### 国語学概論Ⅰ

日本語文法の理論と文章表現を学ぶ。

その他、国語表現法、日本語文章作成など



#### <日本文学研究科目>

日本文学に関する諸問題の考察を通じ研究における様々な視点や方法を学ぶ。

#### [主な科目]

##### 日本文学概論

日本文学の流れをたどりながらその特質について概説するとともに、日本文学をいかに研究するか、その基本的な知識、姿勢、方法について概説する。

##### 日本語日本文学入門

日本語あるいは日本文学を研究することの意義と方法について概説する。共通語と方言、書き言葉と話し言葉、古典文学と絵画、物語と和歌、など。

##### 日本語文章読解

日本の小説や随筆文、論説文をいくつか抜粋して取り上げ、それらを語彙や文体にして注意しながら読む。学んだことをもとに自分の考えを日本語で表現する



#### <日本文化研究科目>

日本の歴史や文化をテーマとした基礎的な知識や専門的な研究のための視点を学ぶ。

#### [主な科目]

##### 日本史概説Ⅱ

日本の近世から近代にかけての政治と社会の動きを具体的に探り、日本近世・近代史の基礎を理解すると共に現代社会の基盤に対する理解を深める。

##### 民俗学概説Ⅰ

日常生活の中のさまざまな習慣が、いつ、どのように作り出されたのか、近代国家成立によってどう変化したのか理解し、伝統的習慣をどう考えるべきかを学ぶ。

##### 文化史概説Ⅰ

明治維新から敗戦までの日本近代思想史を学ぶ。日本近代思想史の基礎知識を習得すると共に、歴史認識を再考する手がかりを学ぶ。

##### 日本の文化と社会

日本の社会、文化、歴史などについて基礎的な知識を習得する。授業で扱うテーマは参加者で話し合っ

て決める。その他、日本史概論、異文化理解、など

#### <日本社会研究科目>

現代日本の諸問題を、政治、教育をはじめとする様々な視点から分析・考察する。

#### [主な科目]

##### 地域社会学概説Ⅱ

社会の基本構造である家族と地域社会の構造と機能について、また地域社会の「原型」について学ぶ。明治以降の近代化・産業化についても講義する。

##### 政治史

日本の民主化の歴史に関して理解する。

##### 比較政治論

政治や行政の大きな目標である安心安全な社会の形成にかかる福祉国家体制のあり方を比較政治学的な視点から研究する。

##### 現代政治論

現代政治に関わる諸現象を理解するための知識・分析枠組みに関する学問的知見を習得する。

その他：社会学概論、マスコミ論、教育社会学、法学入門、人文地理学、教育学概論、教育史など

⑦ 年間行事

10月～2月	秋学期
9月末	開講式
10月	ウェルカムパーティー
12月	留学生シンポジウム(発表) 留学生パーティー
	冬期休暇
1月末	定期試験
2月	研修旅行
3月	春期休暇
4月～8月	春学期
5月～6月	熊本ボランティアガイド講座
7月	定期試験
8月	修了レポート提出 口頭試問 水前寺公園で能鑑賞
9月	修了式



<<熊本大学の宝>>



小泉八雲(Lafcadio Hearn) 翻訳  
ちりめん本

明治時代に出版された「ちりめん本」と呼ばれる昔話の絵本です。日本文化を伝える品として英語や、ドイツ語、フランス語やスペイン語に翻訳されました。

写真は、小泉八雲が翻訳したちりめん本です。ヘボン式ローマ字の創始者J.C.ヘボンや、日本古典文学研究者B.H.チエンバレンなどが翻訳したちりめん本とともに熊本大学の図書館に収蔵されています。

⑧ 指導体制

学生は、専門に合わせて各学部に文学部、法学部、教育学部等に所属します。  
学生1人に対し所属する学部の指導教員と日本語担当教員2名での共同指導を行います。

⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

1年間に26単位以上取得し、口頭試問に合格かつ修了レポートを提出した学生には修了証書を与えます。

○指導教員

氏名	職名	専門分野
堀畑 正臣	教授	日本語学・語彙 (中古・中世の日本漢語研究)
伊藤 洋典	教授	政治思想
福澤 清	教授	言語文化の比較対象研究
坂口 至	教授	日本史・九州方言
三澤 純	准教授	日本近現代史
坂元 昌樹	准教授	日本近現代文学(小説・批評)
パウア トビアス	准教授	比較思想史
中野 貴文	准教授	日本古典文学(中世)
小脇 光男	教授	日本語教育・言語学
梅田 泉	准教授	教育方法学
マステン 真理子	講師	日本語教育・異文化理解
松瀬 成子	講師	日本語教育・音声教育
今西 利之	講師	日本語学(文法)・日本語教育学

\* その他、教員が学生の専門に合わせて指導にあたります。

○プログラム実施委員

日本語・日本文化研修留学生の受け入れ、年間授業計画、成績判定、修了認定のために、全学からの委員による委員会が組織されています。



■ 宿 舎

キャンパスから東に1.5kmほど離れたところに、留学生のための寮「熊本大学国際交流会館」があります。200人以上の留学生や研究者が住んでいます。宿舎から大学までは自転車10分くらいです。

<部屋タイプ> ルームシェア

1つの部屋には、4つの個室と共有の居間、キッチン、バスルームがあります。

<設備> 机・エアコン・ベッド・冷蔵庫・電磁調理器・電子レンジ・電話機(受信専用)

<寄送料> 月額 15,400円(水道・光熱・共益費含む)

\* 料金は、変更になる場合があります。

\* その他、入居時に預託金、退去時に清掃費・鍵交換費が必要。

ふとんリース：約10,000円/年

インターネット：別契約



個室の様子

■ 修了生へのフォローアップ

<修了後の進路例>

- ・ 日本大学院へ進学
- ・ 大使館勤務
- ・ 日本企業勤務
- ・ 日本語翻訳・通訳
- ・ 日本語学校教師
- ・ 大学教員

■ 問い合わせ先

熊本大学 国際戦略ユニット

住所 〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1

電話 +81-96-342-2103 (直通)

FAX +81-96-342-2130

E-mail gji-ryugaku@jimui.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学国際化推進センターホームページ

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/kokusaikouryuu/>

熊本大学ホームページ

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

日研生ホームページ

[http://www.kumamoto-u.ac.jp/kokusaikouryuu/](http://www.kumamoto-u.ac.jp/kokusaikouryuu/gaikokujinryuugakusei/kyouikuprogram/nihongo.html)

[gaikokujinryuugakusei/kyouikuprogram/nihongo.html](http://www.kumamoto-u.ac.jp/kokusaikouryuu/gaikokujinryuugakusei/kyouikuprogram/nihongo.html)

国際交流会館  
シェア棟



# 大分大学 (大分県)



歴史豊かな大分の地で、日本語・日本文化の知識を高め、各国における日本研究の進歩に貢献しよう！

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

大分大学（以下「本学」）は、4学部（教育福祉科学部、経済学部、医学部、工学部）、5大学院（教育学、経済学、医学系、工学、福祉社会科学研究科）からなり、平成23年度現在、学部生約5020人、大学院生約750人が学ぶ国立大学法人です。

その縁に囲まれたキャンパスでは、「創造性や人間性に富む人材の育成」、「国際社会の平和と発展への貢献」、「人類の福祉と文化の創造」を理念とした教育が実践されており、少人数制の教育の下、教員やスタッフと親密な関係が築け、日本人学生との交流も活発に行うことができます。

### ② 国際交流の実績

本学は、現在19の国と地域の57大学と学生交流協定を結んでおり、約170人の留学生が学んでいます。

本学の日研究生プログラムは2004年から始まり、毎年日研究生を受け入れてきました。このプログラム以外にも、協定校からの短期留学生を対象とした交換プログラムがあり、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、中国、韓国などから、毎学期約70人の交換留学生が本学で学んでいます

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2011年：留学生数171人、日本語・日本文化研修留学生1人  
2010年：留学生数165人、日本語・日本文化研修留学生1人  
2009年：留学生数151人、日本語・日本文化研修留学生2人

### ④ 地域の特色

そして、知っていましたか？ 大分県の人口10万人あたりに占める留学生の数は2009年に東京を抜いて今や日本一です。大分県は留学生に最も好かれている県であるわけです。

大分県は九州東部にあり、県庁所在地は大分市。人口約47万人の地方都市ですが、大都市に比べて物価が安く、人々も親切で、留学生には生活しやすいところです。県内には、別府や湯布院など、全国的にも名高い温泉地があり、近年はアジアからの観光客にも人気を博しています。年間平均気温は約17度と、温暖で過ごしやすく、四季おりおりの海や山の美しさを堪能することができます。

大分の歴史も魅力的です。かつて大友宗麟が大分地方をおさめていた時、今の大分市は日本を代表する国際都市であったのです。そして、更に大分の歴史は11世紀から12世紀にかけて彫られた臼杵の石仏（国宝）、8世紀に建立された宇佐神社へとさかのぼることができます。

## ■コースの概要

### ① コースの特色

日本語・日本文化研修留学生（以下「日研究生」）コースは、

- 1) 日本語・日本文化に関する高度な知識の習得を目指し、
- 2) 日本語・日本文化研究の進歩に貢献し、
- 3) あなたの国と日本との相互理解の促進に貢献する意思のある

外国人留学生のためのコースです。

本学日研究生コースにおける日研究生の最も重要なタスクは、日本語・日本文化に関わるテーマの一つを選び、指導教員の指導の下、調査・研究の仕方、日本語での論文の書き方を学びながら、1年かけて論文を書き上げることです。これと並行して、中級（レベル4）から最上級までの日本語科目、ならびに、国際理解教育科目「表現技術」の中から自らのレベル・目的に合った科目を選択し、日本語のさらなる習得も行います。日本語上級の日研究生は、本学日本人学生が学ぶ教養・専門課程科目の受講も可能です。また、

将来日本研究の論文を英語で発表してみようと考えている日研究生は、英語で講義が行われるIPOU科目の選択も可能です。最後に、地域の祭りや研修旅行などに参加し見聞を広められることも本学日研究生コースの魅力です。

### ② 受入定員

5名（大使館推薦2名、大学推薦3名）

### ③ 受講希望者の資格、条件等

- 1) 外国（日本以外）の大学で、日本語・日本文化に関する分野を主専攻あるいは副専攻としており、来日時時点で日本語を300時間程度学習していること。ただし、日本語が母語でないこと。
- 2) 日本語で日常会話ができること。
- 3) 自分の得意な研究分野の日本語論文を辞書を使って読む能力を有していること。
- 4) 400字の長さの日本語エッセイを辞書を使って30分程度で書ける能力を有していること。
- 5) 日本語・日本文化をテーマに調査・研究を自主的に行う意欲があること。

### ④ 達成目標

#### 1) 学術的目標

•論文の書き方を習得し、自ら専門の分野の論文を実際に執筆する。

•学術論文の書き方では、具体的には下記を学ぶ

- ▶序論・本論・結論の論理的繋がりの理解
- ▶理論構築とデータ収集のバランスのとおり方
- ▶参考文献の提示の仕方
- ▶テキスト内引用の方法

#### 2) 日本語運用上の目標

•対人関係・場に配慮した、大人の日本語が理解でき、話せるようになる。

- 大学の教養課程レベルで要求される日本語能力（レポート作成および発表）が身につく。具体的には、授業内容がわかり、レポートが書け、授業での発表ができるようになる。
- 大学の教養課程レベルで要求される日本語能力（レポート作成および発表）が身につく。具体的には、授業内容がわかり、レポートが書け、授業での発表ができるようになる。
- 地域交流に必要な日本語が理解でき、話せるようになる。

⑤ 研修期間

2012年10月1日 ～ 2013年8月31日  
修了式は8月を予定（2011年は8月）

⑥ 研修科目の概要

次に説明する必須・選択科目の中から、1週間に7科目以上受講する必要があります。それぞれの科目は、1週間に1コマ(90分)の開講で、日研究生はコース修了時まで**少なくとも315時間の日本語・日本文化の研修**を受けることになります。

1) 必須科目

•日本研究Ⅰ、Ⅱ

「日本研究Ⅰ」と「日本研究Ⅱ」があります。どちらも必ず取らなければなりません。指導教員の指導の下、日本語・日本文化に関するテーマを一つ選び、調査・研究を行い、その成果を論文として「日本研究Ⅱ」で提出します。

•日本語科目

プレースメントテストで受講するレベルが判定されます。日本語科目にはコンテンツ・ベースの特講（表1参照）と言語ベースの日本語4から日本語6（表2参照）の4レベルがあり、これらの日本語科目から原則として毎学期最低3科目は受講しなければなりません。

2) 見学、地域交流等の参加型科目

「学習ボランティア入門」では大分の地域ボランティア活動に参加できます。「大分の水Ⅰ、Ⅱ」では大野川水系を中心とした大分県内の水辺の環境・地域づくりの実態を体験学習などを通じて学びます。『里海・里山Ⅰ、Ⅱ』では自然環境と

生き物のつながりフィールドワークなどを通じて学びます。（これらの科目は「教養科目」です。詳細は次項参照。）

3) その他の講義、選択科目等

•国際理解教育科目「表現技術」

「表現技術」は、日本人学生も受講する科目で、口頭発表の技術を学びます。（表1参照。）

•教養・専門科目（各学部開設科目）

指導教員の助言のもと、各学部の日本人学生のための教養教育科目や専門科目の中から、受講することができます。

•IPOU科目

英語を通じて日本社会・文化を学ぶコースで、授業はディスカッション中心。受講に当たってはIPOUコーディネーターの承認が必要です。

表1. 特講（最上級日本語）および国際理解教育の科目名

科目名	内容	レベル
日本語特講1	言語と社会	超級(OPIレベ)
日本語特講2	大分事情	超級(OPIレベル)
日本語特講4	日本のポップカルチャー	超級(OPIレベル)
日本語特講5	レポート作成	超級(OPIレベル)
日本語特講7	日本文化とネット社会	超級(OPIレベル)
日本語特講8	日本文化研究	超級(OPIレベル)
国際理解教育	表現技術	超級(OPIレベル)

表2. 中級から上級までの日本語科目名

科目名	JLPTレベル
日本語4文法Ⅰ	N2
日本語4文法Ⅱ	N2
日本語4スピーキング	N2
日本語4読解Ⅰ	N2
日本語4読解Ⅱ	N2
日本語4作文Ⅰ	N2
日本語4作文Ⅱ	N2
応用日本語	N2
日本語5文法Ⅰ	N1
日本語5文法Ⅱ	N1
日本語5スピーキング	N1
日本語5読解・作文Ⅰ	N1
日本語5読解・作文Ⅱ	N1
日本語6文法分析	N1
日本語6読解・作文Ⅰ	N1
日本語6読解・作文Ⅱ	N1
日本語6スピーキング	N1

⑦ 年間行事

- 10月 開講式、オリエンテーション、  
 プレイスメントテスト  
 新留学生歓迎会  
 チューターとの研修旅行  
 CIERセミナー
- 11月 大学祭・地域開放イベント  
 能の観賞教室  
 日本語スピーチコンテスト・留学生  
 フォーラム  
 健康診断
- 12月 国際文化祭  
 ホストファミリーとの交流会
- 1月 ホームステイ  
 研修旅行（自衛隊訪問）
- 2月～3月 春休み
- 4月 チューターとの研修旅行
- 5月 消防訓練
- 7月 大分大学七夕祭  
 ななせほむら祭り  
 留学生送別会
- 8月 大分市七夕祭り  
 修了式

⑧ 指導体制

プログラム責任教員は、国際教育研究センターの南里敬三、坂井美恵子です。個別研究指導はセンター教員が行います。

個別指導の専門分野は、「日本語教育」、「日本語教授法」、「外国語教育論」、「応用言語学（CALL・動機・第2言語習得研究）」、「大分学（歴史・言語）」、「ジェンダー・スタディーズ」、「クィア・スタディーズ」、「中間言語学用論」、「社会言語学（発話行為、ポライトネス）」、「日本文学（主に、近代・現代）」、「大衆文化研究」、「比較文化・文学理論研究」、「イデオロギーと談話構造の研究」、「システミック言語学」などです。

⑨ コースの修了要件、修了証書の発行  
 履修した科目に合格すると単位が認定されます。また、コースの修了者には、修了証書および成績証明書を発行します。

■宿 舎

日本人学生と一緒に学生寮に入居しますので日本語漬けの生活ができます。詳細は表3をご覧ください。

表3. 学生寮の部屋代・設備など

部屋代 (月額)	20,000円 (全室一人部屋)
設備	机、椅子、ベッド(寝具なし)、クローゼット、ユニットバストイレ、ミニキッチン(冷蔵庫、IHクッキングヒータ)、エアコン
部屋代以外の費用	・共益費 2,000円/月 ・維持管理一時金 30,000円(入居時) ・光熱水費 約9,000円/月 ・インターネット料 2,000円/月(全員加入)

■修了生へのフォローアップ

日研生プログラム修了生は、ブログ、フェイスブック、スカイプ等のソーシャルメディア・プラットフォーム、及び、電子メールなどを通じて、修了後の更なる学術的指導、

及び、進路相談が受けられます。また、フェイスブックを通して他の修了生との情報交換も行え、大分大学及び大分地域の最新情報も入手できるようになります。

■問い合わせ先

大分大学学生支援部国際交流課  
 住所：〒870-1192 大分市旦野原700  
 TEL : +81-97-554-7329  
 FAX : +81-97-554-7437  
 E-mail : ryugaku@oita-u.ac.jp

大学大学ホームページ  
<http://www.oita-u.ac.jp>

国際教育研究センターホームページ  
<http://www.cier.oita-u.ac.jp>

日研生ホームページ  
[www.cier.oita-u.ac.jp/j/academic/kokuhi.html](http://www.cier.oita-u.ac.jp/j/academic/kokuhi.html)



# 宮崎大学 (宮崎県)



「日本語」と「日本事情」のクラスを中心に講義を受けるとともに、指導教員が担当する専門分野の科目も受講し、直に日本人学生のものの考え方等に触れる機会をもつ。

## ◇大学紹介

宮崎大学は、教育文化学部、医学部、工学部、農学部の4つの学部と教育学研究科、医科学看護学研究科、工学研究科、農学研究科、医学獣医学総合研究科、農学工学総合研究科の6つの大学院研究科で構成されている国立大学法人です。本学の概要は次のとおりです。

### (1) 課程・学科

◇教育文化学部: 学校教育課程、人間社会課程

◇医学部: 医学科、看護学科

◇工学部: 環境ロボティクス学科、環境応用化学科、社会環境システム工学科、機械設計システム工学科、電子物理工学科、電気システム工学科、情報システム工学科

◇農学部: 植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境科学科、畜産草地科学科、獣医科学科

### (2) 学内共同教育研究施設

◇産学・地域連携センター ◇教育・学生支援センター ◇フロンティア科学実験総合センター ◇国際連携センター

### (3) 学生入学定員及び職員数

◇学部生: 4,822名 ◇大学院生: 712名

◇教員: 664名 ◇事務職員: 751名

### (4) 留学生

◇現在の留学生数: 116名 (19カ国)

## ◇日研究生受入れ実績:

2011年度 1名 (大使館推薦)、2009年度 1名 (大使館推薦)  
2008年度 1名 (大学推薦)、2007年度 1名 (大学推薦)

## ◇コースの概要

(1) 受入定員: 5名 (大使館推薦2名、大学推薦3名)

(2) コース期間

(a) 実施期間: 2012年10月1日-2013年9月15日 (350日間)

(b) 学 期: 後期 2012年10月1日-2013年2月15日  
前期 2013年 4月1日-2013年7月30日

(c) 休業期間: 冬期 12月25日-1月7日  
春期 3月1日-3月31日  
夏期 8月1日-9月30日

(3) 授業科目の概要 (一般学生向け授業を受講)

(a) 必修科目 なし

(b) 選択科目

中級日本語 I-VI / 上級日本語 I-IV / 日本事情 I-VI

(c) 形態: 研修生のニーズに応じて日本語科目等の中から選択。専門科目については指導教員と相談の上、決定。

(d) 研修生は、日本語、日本事情の授業を研修生の日本語能力に応じて受講するほか、各自の専門領域に関連する科目を受講できる。その際、指導教員が専門内容についての個別指導を行う。

(e) 授業時間数: 各授業半期15回 (30時間)

(4) 指導体制

(a) 教員: 責任教員3名 協力教員5名

(b) 個別指導: 日本語個別指導、専門の課外補講

(5) コースの修了要件、修了証書の発行

\* 受講生の必要に応じて修了証を発行

(6) 受講条件: 日本語初級修了程度

(7) 単位認定、単位互換等

\* 交流協定を締結している大学の学生は特別聴講生として受け入れ単位互換を認めている。

## ◇宿 舎

<学生寮>

男子寮 100室、 女子寮 100室

<国際交流宿舎>

単身室 167室

夫婦・家族室 8室

\*過去3年間、日研究生は全員国際交流宿舎 (単身室) へ入居。宿舎に限りがあるため、応募者多数 (特に家族連れでの留学) の場合は、抽選により決定する。

<宿舎費 (月額)>

単身室 4,700円

夫婦室 9,500円 家族室 14,200円

<宿舎設備・備品>

各部屋にベッド, 机, 椅子, クローゼット付

<周辺環境・通学時間>

近隣にスーパー、コンビニ、レストラン  
キャンパス内に宿舎有り。

## ◇問い合わせ先

大学所在地:

〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1-1

担当部署: 研究国際部国際連携室国際連携係

連絡先: TEL: 0985-58-7134/FAX: 0985-58-7782

E-mail: ryugaku@of.miyazaki-u.ac.jp

ホームページアドレス:

<http://www.miyazaki-u.ac.jp>

シラバス掲載アドレス:

<http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/gakumu/>



# 鹿児島大学 (鹿児島県)



九州の南端で<日本>を学ぶ・<日本>を研究する基礎作りをしませんか！

## ■大学紹介

### ① 大学の特色および概要

#### 1) 特色と歴史

鹿児島大学は、九州最南端に位置する9学部、10研究科および留学生センターや国際島嶼教育研究センターなどの教育・研究施設を有する国立の総合大学です。鹿児島大学が新制国立大学として発足したのは昭和24年です。はじめは文理、教育、農、水産の4学部からスタートしましたが、その後、医学部、工学部、各種大学院等を整備して今日に至っています。

文系学部は法文学部と教育学部があり、さまざまな分野の教員が在籍しています。教員の専門分野については、本学のURLを参考にしてください。



#### 2) 教員・学生数等

学部生 (留学生)	8,964名 (94名)
大学院生 (留学生)	1,757名 (181名)
教員	1,140名
職員	1,337名

### ② 国際交流の実績

現在、学部学生8,964名のうち留学生94名、大学院生1,757名のうち留学生181名が在籍しています。

過去10年間の日本語・日本文化研修留学生の出身と専攻分野は以下の通りです。この中の何名かは研究生・大学院生などとして再来日し、学位を取得しています。

出身…アメリカ合衆国、インドネシア、オーストラリア、シンガポール、韓国、中国、ドイツ、ベトナム、ポーランド、モンゴル、ロシア、ウクライナなど。

専攻分野…日本語学、日本史、日本文学、政治学、経済学、社会言語学、日本文化論など。

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2011年：留学生数 277人、日本語・日本文化研修留学生 1人  
 2010年：留学生数 267人、日本語・日本文化研修留学生 1人  
 2009年：留学生数 272人、日本語・日本文化研修留学生 1人

### ④ 地域の特色

鹿児島市は人口約60万人を有し、地域の特性を生かして古くから海外との交流により発展してきた都市です。古くはフランシスコ・ザビエルの来航、また藩政時代から海外貿易に力を注ぎ、幕末には国禁を犯して英国に留学生を送るなど海外交流の歴史は古くから続いています。

桜島を目の前に眺望できる鹿児島市は、東洋のナポリとうたわれイタリアのナポリ市を始め、オーストラリアのパース市、中国の長沙市、アメリカのマイアミ市と姉妹都市盟約を結んでいます。

気候も温暖で、年間を通して過ごしやすく、生活環境、勉学環境も整い、快適な留学生活を送ることができます。

## ■コースの概要

### ① コースの特色

- 1) 次のような研修留学生を募集します。
  - i 日本語能力（聞く・話す・読む・書く）をさらに伸ばしたい人。
  - ii 日本文化や日本文学、日本社会、異文化コミュニケーションを中心に総合的に学びたい人。
  - iii 鹿児島地域の文化、歴史に興味を持ち、研究テーマとして発展させたいと考えている人。
  - iv 自分の卒業論文作成のために、テーマを探し、資料の収集を行い、論文指導を受けたい人。

2) 本学のコースは、このような研修留学生を対象に、その留学生の日本語能力に応じたきめ細かい指導を行っています。また、留学生の専門分野に応じて、指導教員が論文作成のための指導を行います。選択科目が豊富に用意されているので、留学生は自分の希望に沿った講義を受講することが可能です。

### ② 受入定員

6名（大使館推薦3名、大学推薦3名）

### ③ 受講希望者の資格、条件等

次の(a)及び(b)の条件を満たしている者が、このコースを受講できます。

(a) 外国の大学に1年以上在籍し、日本語または日本の文化、文学、社会等に関する分野を主として学習している者。

(b) 日本語能力試験のN2級以上に合格または同等の能力を有する者。

④ 達成目標

日本語能力試験N1合格を目標とし、また日本文化研究については特定の領域に焦点を絞った小論文を作成し、ポスターセッションでプレゼンを行うことを目標としています。

⑤ 研修期間

2012年10月1日 ~ 2013年9月30日  
修了式は9月を予定（2011年は9月）

⑥ 研修科目の概要

授業は原則として、前期・後期各15週間開講義されます。

必修科目	4科目	(各1単位)
講義・見学	4科目	(各2単位)
選択科目	8科目	(各2単位)
修了論文	1科目	(2単位)
合計	17科目	(30単位)

1) 必修科目

**日本語Ⅰ** 1単位（Ⅱ期30時間） ニュース、インタビューなどの聴解教材を利用し、聴解力の育成に重点を置く。

**日本語Ⅱ** 1単位（Ⅱ期30時間） プロジェクトワークを通じてインタビューや口頭発表を行い、話す力をさらに伸ばす。

**日本語Ⅲ** 1単位（Ⅰ期30時間） 大学生活に必要なスキルの中で、特に「話す」ことに重点を置く。レジュメを使った発表、ディスカッションの仕方、インタビューなどについて学ぶ。

**日本語Ⅳ** 1単位（Ⅰ期30時間） レポート・小論文などの完成に必要な作文力（構文力・構成力）の習得と読解力の育成を目指す。

2) 見学、地域交流等の参加型科目

**見学** 市内及び近郊の美術館・博物館・神社・工場等の見学を年間行事に併せて行います。

**地域交流等の参加型科目 国際理解教育調査研究Ⅱ**

2単位（Ⅰ期30時間） 「日本人学生と学ぶ鹿児島」というテーマのもと、日本人学生と留学生の合同グループで鹿児島について見学調査し、その結果を発表します。集中講義で行います。

3) その他の講義、選択科目等

その他の講義等

**日本事情A** 1単位（Ⅱ期30時間）

文化の定義、慣習とマナー、鹿児島学、時代と文学、異文化サバイバル、留学論などを扱う。

**日本事情B** 2単位（Ⅰ期30時間）

地理、教育、政治、伝統、宗教、昔話、現代文学、人間関係論などを扱う。

**日本事情C** 2単位（Ⅱ期30時間）

日本の現代社会で生じている様々な問題について、テレビ番組、新聞、雑誌などの資料から分析し、考察する。

選択科目等

自分の専門分野に関する学習・研究のために、共通教育や所属する学部及び他の学部で開講されている授業科目について指導教員と相談の上、受講する科目を決めます。また、留学生センターで開講される科目を受講することもできます。授業科目の例は以下に掲げます。

科目名	単位数	授業時間数	
		I期	II期
言語行動論Ⅱ	2	30	
異文化理解論	2	30	
日本語教授法概論	2		30
国語学概論	2		30
音声学概論	2		30
狂言の世界	2		30
日本民族学	2	30	
日本文学	2	30	
現代社会を考える	2	30	
国際異文化交流	2	30	
日本史学	2		30

**選択日本語（前期、後期、合計時間数）**

中級会話 2	60	60	120
中級読解 1	60	60	120
中級読解 2	60	60	120
中級作文	30	30	60
発音クリニック	30	30	60

⑦ 年間行事

- 10月： 秋期オリエンテーション
- 11月： インターナショナル・ナイト
- 2月： 「日本人学生と学ぶ鹿児島」  
2泊研修旅行（京都・奈良）
- 3月： 屋久島異文化交流セミナー  
卒業・修了懇談会
- 4月： 春期オリエンテーション
- 8月： ポスターセッション



## ⑧ 指導体制

### 1) プログラム実施委員

氏名（職名）	所属	専攻
大嶋 眞紀 （教授）	留学生センター	日本文化論
畝田谷桂子 （准教授）	留学生センター	専門日本語教育
梅崎 光 （准教授）	教育学部	国語学（日本語の歴史）
中島 祥子 （准教授）	教育学部	日本語教育、異文化理解教育

### 2) 指導体制

研修留学生の専門分野に応じて、教育学部・法文学部の教員の中から指導教員を1名定め、学習・研究上のアドバイスを行っています。また、調査、文献検索などの小論文作成指導等を継続的に行い、随時個別指導も行います。生活面の指導については留学生センターと連携しながら行います。

## ⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

研究領域に応じた小レポートを提出することが条件です。希望者には修了証を発行するとともに、受講した科目については成績証明書を発行します。



## ■ 宿 舎

・ 鹿児島大学内の留学生用の宿舎

**国際交流会館**（郡元キャンパスから徒歩20分）

- ① 40室（単身室35 夫婦室3 家族室2）
- ② 36室（単身室30 夫婦室4 家族室2）

・ 過去3年間の日研生の宿舎入居状況（各年度10月現在）

年度	人数	宿舎入居状況
2009年度	1名	国際交流会館へ入居
2010年度	1名	国際交流会館へ入居
2011年度	1名	国際交流会館へ入居



## ■ 修了生へのフォローアップ

個別対応としては、プログラム実施委員が適宜必要に応じてメール送受信を行っている。また、鹿児島大学 Newsletter の送付及び鹿児島大学の広報活動を担う元日研生には「鹿児島大学友好大使」の任命を検討中である。

## ■ 問い合わせ先

（担当部署）

鹿児島大学研究国際部国際事業課

住所：〒890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-24

TEL：+81-99-285-3015（直通）

FAX：+81-99-285-7328

E-mail：ryugaku2@kuas.kagoshima-u.ac.jp

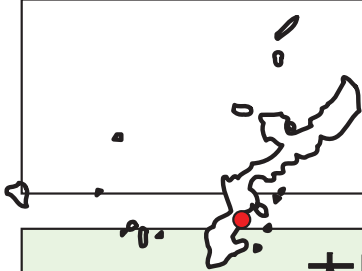
鹿児島大学留学生センターホームページ

URL：http://www.isc.kagoshima-u.ac.jp/

鹿児島大学ホームページ

URL：http://www.kagoshima-u.ac.jp





# 琉球大学 (沖縄県)



太陽と海と色彩豊かな自然に囲まれた学習環境

## ◇大学紹介

### ① 大学の特色および概要

#### 1) 特色と歴史

琉球大学は沖縄が米軍統治下にあった1950年に創設、1972年の日本への施政権返還に伴って国立大学となりました。日本唯一の亜熱帯島嶼地域という特性を活かし、熱帯地域の海洋、島の自然と文化、方言等の研究・調査が盛んな大学です。



学部	大学院
法文学部	人文社会科学研究科
観光産業科学部	観光科学研究科
教育学部	教育学研究科
理学部	理工学研究科
工学部	
農学部	農学研究科
医学部	医学研究科
	保健学研究科
	法務研究科

#### 2) 教員・学生数 (2011年5月現在)

- \* 教育研究職員数: 1,685名
- \* 学部学生数: 7,315名
- \* 大学院生数: 1,016名

## ②国際交流の実績

- I. 留学生数45ヶ国284名 (2011年5月1日現在)
- II. 日本語・日本文化研修留学生受入実績  
27ヶ国61名 (1994~2011年)

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2011年: 留学生数 284人、日本語・日本文化研修留学生 3人  
 2010年: 留学生数 273人、日本語・日本文化研修留学生 0人 (辞退1人)  
 2009年: 留学生数 308人、日本語・日本文化研修留学生 2人



### ④ 沖縄県の特色

日本の最も南に位置する沖縄は、その昔、琉球王国という一つの国でした。また、第二次世界大戦後は1972年まではアメリカ軍の施政権下に置かれました。このように、日本本土と異なる歴史的背景を持つ沖縄は、歌や踊りなどの芸能、言語、食文化をはじめさまざまな文化が息づいている地域です。また、温暖な気候と美しい自然に恵まれ、国内有数のリゾート地となっています。空手の発祥地としても有名です。そんな沖縄で学べば、「日本」全体を一つの文化圏ととらえる型にはまった視点からではなく、多角的に日本をとらえることができるようになるでしょう。ぜひ沖縄の文化に触れてみてください。



琉装の体験学習



## ◇コースの概要

### ① コースの特色

- 1) 社会や文化の「比較」に重点を置いた研修を行う中で、日本の社会や文化全般と沖縄独特の地域の社会や文化について理解を深めることができます。
- 2) 研究に必要な日本語の高度な運用力、正確な読解力と文章構成力の養成を行い、日本語学や日本の社会や文化の研究手法や知識を身につけることができます。
- 3) 専門の教員に指導を受けつつ、興味のある分野について知識を深めることができます。同時に、様々な関連科目を学ぶことができます。
- 4) 地域の教育機関や文化施設への見学、文化行事への参加など、様々なアプローチで日本および沖縄を学ぶことが可能です。
- 5) 日本人学生と積極的な交流も図り、授業だけでなく、大学生活の中で日本を学ぶことができます。

### ② 受入留学生定員

12名 (大使館推薦6名、大学推薦6名)



着物の着付けと礼儀作法の学習



### ③ 受講希望者の資格、条件等

日本国以外の大学の学部(主に3年次以上)している者。また日本語・日本文化に関する分野を専攻にしている者とします。日本語力は日本語能力試験2級以上の能力があることとします。

### ④ 達成目標

- 1)日本語母語話者の大学生並みの文章が書け、口頭発表ができるようになること。
- 2)日本語を用いて日本語や日本文化に関する研究ができるようになること。



### ⑤ コース期間

2012年10月1日 ~ 2013年9月30日  
修了式は8月を予定(2011年は8月)

### ⑥ コース形態

法文学部の学部留学生を対象とした「日本語・日本事情」の専門科目を中心に受講することになっている。希望に応じて他学部で開講される一般学生向けの授業についても受講・聴講可能なコース。

受講した授業は単位を取得することができる。

### ⑦ 授業科目の概要

授業は原則として、前期・後期各16週開講する予定。総時間数は600時間で、そのうち必須科目は112.5時間、選択必修科目は225時間。

#### 1) 必須科目

授業科目名	内 容
基礎演習Ⅰ・ 基礎演習Ⅱ	図書館の利用法、資料の検索方法を学び、研究レポートを作成する。また研究発表のプレゼンテーション技能の養成を行う。
日本文化Ⅰ・ 日本文化Ⅱ	教員が一方的に講義するのではなく、受講生が自発的に日本文化について調べたりして学ぶことを目標とする。
日本語文章表現(1学期のみ)	文章構成、パラグラフ分析、要約文、レポートの書き方など高度な作文力の養成をし、さらに資料を提示しながら行う発表の仕方を学ぶ。

#### 2) 選択必修科目(各学期2科目は履修しなければなりません)

授業科目名	内 容
日本語演習Ⅰ・Ⅱ	実際の日本語の現象を注意深く観察し、日本語学の基礎知識の習得を目指す。
琉球文化特別研究Ⅰ・Ⅱ	琉球舞踊や琉球方言など、代表的な沖縄文化の講義と体験を通して沖縄とは、沖縄人とは、沖縄文化とは何かを考える。
日本語作品講読Ⅰ・Ⅱ	代表的な現代文学作品(詩・短歌・俳句・小説等)を鑑賞し、日本文化一般について学ぶ。
二言語対照研究	日本語と他の言語とを比較し、言語の類型や普遍性を考える。
ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ	ビジネス場面において必要な日本語を学び、ビジネスマナーについて知る。



#### 3) 選択科目(一般学生用ですが、受講可能です)

授業科目名	内 容
三線と島唄	三線に関する基礎知識を学び、沖縄民謡の実技を行う。
琉球語入門	沖縄地域に固有の言語であり、絶滅が危惧されている琉球語(沖縄方言)について、初歩から学ぶ。
現代アジア論	沖縄から見たアジアの、文化や社会のあり方について考える。
地域と生活	沖縄という視点から、地域形成に関わる文化の役割や生活のあり方について考察する。
沖縄のさんご礁	沖縄に多く生息する珊瑚の生態と現状について学び、現代社会を取り巻く環境問題について考える

注:受講可能な科目は上記以外にもあります。

#### 4) 見学

本プログラムの学生は関西方面への研修旅行や沖縄県内の社会見学の機会(年間4-5回)を提供しています。さらに、伝統文化理解の一助として、組踊の鑑賞会に出かけたり、和室で茶道を体験したりもしています。地域の家庭にホームステイしたりホームビジットしたりする機会も設けられ、日本人学生との交流会にも参加できます。

主な見学先:

- 首里城 & 玉陵
- アブチラガマ(戦跡)
- 平和祈念公園 & 資料館
- 琉球新報社(新聞社)
- 沖縄県議会棟
- 牧志公設市場
- 埋蔵文化財センター
- 沖縄テレビ放送



#### 5) 地域交流

地域の小・中・高等学校を訪問し、授業、給食、掃除など学校生活を実体験したり、児童・生徒の発表や留学生のお国紹介を行うなど、積極的に文化交流を図っています。



#### 6) 日本語

【授業科目及び授業時間数】(1コマは90分)

授 業 科 目			コ マ 数		
			後 期	前 期	計
日 本 語 教 育 プ ロ グ ラ ム	日 本 語 Ⅲ ・ 日 本 語 Ⅳ	聴解・語彙	31	31	62
		読解・文法	31	31	62
		作文・発表	31	31	62
	沖 縄 事 情 Ⅰ ・ Ⅱ	沖 縄 の 社 会 と 文 化	16	16	32
	日 本 事 情 Ⅰ ・ Ⅱ	日 本 の 社 会 と 文 化	16	16	32

## ⑧ 行事等

(下記以外にも見学や体験学習があります)

10月 首里城 & 玉陵見学

11月 沖縄地域留学生交流会(パーティー)

組踊鑑賞会

12月 書道体験

関西(京都・奈良・大阪)旅行

1月 泡盛工場見学

2月 学内日本語弁論大会

3月 茶道体験

4月 研究レポート中間発表会

5月 陶芸体験

6月 平和学習

戦跡および平和祈念公園見学

7月 留学生祭り

日本語劇

8月 研究発表会

修了式

9月 久米島ホームステイ

レポートの完成



## ⑨ 指導体制

1)プログラム実施委員

責任教員(専攻), E-mailアドレス  
 金城 尚美 留学生センター 教授  
 (日本語教育・教育工学)  
 knao@ll.u-ryukyu.ac.jp

金城 克哉 法文学部 准教授  
 (言語学・日本語教育)  
 kinkats@ll.u-ryukyu.ac.jp

2)指導体制

研修生は法文学部に所属し、上記指導教員がつき、学業、生活両面にわたって必要に応じて個別に指導にあたります。また、上記以外に留学生センターと法文学部の適切な専門分野の教員にも研究指導に関して協力をお願いしています。

## ⑩ コースの修了要件, 修了証書の発行

所定の課程(年間540時間以上)の研修を終え、研究レポートを提出し、指導教員がその成果を認めた留学生については、修了式にて本学学長の名において修了証書を授与しています。

## ⑩ 単位認定, 単位互換等

受講した科目については単位を出しますが、単位の認定については、留学生が在籍する本国の大学の判断によります。単位認定に必要な場合、研修期間内に履修した科目については、成績証明書と履修内容等を記した文書を出すことができます。

## ◇ 宿 舎

・日研生はキャンパス内にある学生寮(日本人学生と共用)に入寮するのが普通ですが、やむを得ず民間アパートに入居しなければならない場合もあります。  
 ・室内にはベッド、机、椅子、ロッカーがあります。共同設備として、Wi-Fiアクセスポイント、シャワー室、洗濯室、ラウンジ、売店、自動販売機があります。



学生寮



・留学生宿舍、民間アパートの費用

	寄宿料	維持費	光熱費
一般寮	¥4,300	¥4,400	使用実績額
混住寮	¥4,700	¥8,400	使用実績額
新混住棟	¥15,000	¥4,000	使用実績額

・沖縄は、物価が安く生活しやすいです。  
 ・大学周辺のアパートについては、約月額35,000円程度  
 ・過去3年間の日研生の宿舎入居状況(各年度10月現在)

	国際交流会館	学生寮	アパート等	合計
2009年度	0名	2名	0名	2名
2010年度	0名	0名	0名	0名
2011年度	0名	3名	0名	3名

## ■ 修了生へのフォローアップ

《日本語・日本文化研修留学修了生の主な進路》

- 1)日系企業(日本国内または母国)への就職
- 2)琉球大学または日本国内の他大学の大学院への再入学(研究留学生(国費)として)
- 3)JETプログラムの国際交流員・外国語教師
- 4)母国での通訳やガイド、翻訳者として活躍
- 5)大学の教員
- 6) 外国人タレント

《フォローアップの実績》

- 1)Facebookにてグループを立ち上げ、いつでもどこでも連絡がとれるようにしています。
- 2)ホームページで過去の日研生の活動が見られます。
- 3)2010年3月には韓国を訪問し、修了生へのフォローアップ調査を実施いたしました

## ◇ 問い合わせ先

(担当部署)  
 琉球大学学術国際部国際課

住 所 : 〒903-0213  
 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地  
 TEL : +81-98-895-8103(直通)  
 FAX : +81-98-895-8102  
 E-mail: koshogak@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

大学のホームページ :  
 ・<http://www.u-ryukyu.ac.jp/>  
 留学生センターのホームページ :  
 ・<http://www.r-center.u-ryukyu.ac.jp/>  
 日本語・日本文化研修プログラムのホームページ :  
 ・<http://www.r-center.u-ryukyu.ac.jp/article/1/2/10/>  
 ・[http://www.r-center.u-ryukyu.ac.jp/\\_backup/r-center-s-joho/nikkennsei.htm](http://www.r-center.u-ryukyu.ac.jp/_backup/r-center-s-joho/nikkennsei.htm)

